

月刊

AMDA

国際協力

Journal

12

DECEMBER

1997.12.1

(VOL.20No.12)



Project Report

海外便り

ネパール子ども病院建設・AMDA ブラジル

NGOサミット・APRO・防災訓練報告他



『純粋待ち受け派』の新料金プラン。

スーパーローコールプラン

まってるわ話

11月
から
新登場!!



自分からかけるより、
受けることが多い
「待ち受け中心」の方に
おすすめです。

基本使用料 月々
らくらく
2,500円

純粋デジタル
携帯電話の
デジタル
ツーカー

ケータイ買うなら今がチャンス!

'98年
1月31日
まで実施中

スーパーローコールプラン「まっtel話」登場記念 **お買い替え特典付き**
タイプT2『スーパーバリューセット』
キャンペーン!

※数に限りがありますので、品切れの場合はキャンペーンを終了させていただきます。詳しくは取扱店にてお尋ねください。

デジタルツーカー中国

お客さまセンター (24時間 日祝日および20時~翌9時) デジタルツーカー
携帯電話 (局番なしの) 151 一般電話から ☎0120-407272

ネパール子ども病院起工式



起工式の来賓

ヒンズー教に基づく
起工式のくわ入れ儀式



ダマック市のAMDA Hospital
における母子の一コマ
来年にはこのような光景がブ
トワールでも見られる

第1回 体験ボランティアフェスティバル

第1回
体験ボランティアフェスティバル
1997. 10. 10. AM9:30~PM4:00



ボランティアネットワーク・アスカとAMDAの主催による「第1回 体験ボランティア・フェスティバル」が、地域の皆さんやAMDA 高校生会の協力のもとに、行われました。



AMDAグッズ、野菜、古着のバザーで賑わいました。



老人介護コーナーでは、車椅子操作やおむつの替え方の指導等が行われました。



AMDA

国際協力

Journal

1997
12月号



CONTENTS



ネパール子ども病院起工式報告	4
篠原基金でネパール保健医療推進へ	7
ネパール国パラメディカルトレーニング活動報告	10
カンボジアデイケアセンター報告	12
NGO サミット報告	14
APRO 報告	16
防災訓練報告	18
ビジネスミーティング報告	20
小林米幸のクローズアップ	22
海外便り・ブラジル支部	24
フィリピンから	25
フィールド日記2	26
NGO カレッジ・ダイジェスト	30
国際交流ひろば〈学校・行政・地域〉	34
岡山県加茂川町のころみ(2)	38
栃木便り	40
AMDA 国際医療情報センター便り	42
事務局だより	50

表紙の写真



ネパール子ども病院起工式の日

ブトワール近郊から集まってきた子どもたちは、「ナマステ」「ナマステ」と手を合わせながら、AMDA 菅波代表ら一行に『子ども病院』ができるお礼と、喜びの気持ちを伝えた。

未来を担う子どもたちに希望

ネパール子ども病院起工式

毎日新聞社会部記者

山本 泰久

11月6日、毎日新聞社事業団とAMDAとの連携で建設計画が進んでいた「子ども病院」の起工式が開かれた。この起工式や、ネパールの人たちの暮らしぶりなどを取材するため、ネパールに8日間滞在した。AMDA副代表の山本秀樹先生らに同行しながら、カトマンズ、ダマック、コパシ、プトワールなど各地を見て歩いて感じたことは、ネパールの人々の心の優しさ、暖かさ、そして、その生活の貧しさ、悲惨さだった。そんなネパールの人たちにとって「子ども病院」の建設は、未来を担う子どもたちを守る施設となる。ODA（政府開発援助）とは違う、一人ひとりの善意でできる施設である。そして、私たち日本人にとっても、「こんなことができるんだ」ということを教えてくれる施設となるに違いない。



あいさつする筆者

【喜びの起工式】

起工式は、想像していた以上に大規模なものだった。集まったプトワール市内の人たちは約2千人。チャーターされたネパール軍機を降り、車で約30分。建設予定地に到着し、車から降りると、多くの人、人、人……。菅波茂代表ら約20人の一行に子どもたちが花束を渡し、「ナマステ（こんにちは）」と手を合わせる。笑顔からこぼれた白い歯が、テント張りの会場に集まった多くの人に広がっていくようだった。

た。

「病院ができる」ことが、ネパールの人たちにとってどれだけ嬉しいことか、大半の日本人にとっては想像は難しいだろう。ネパールの5歳未満児の死亡率は日本の約20倍。小児専門病院は一つしかなく、病院に行くのに一日かけて歩かなければならないことも多い。そして、出産後の母親の生存率の悪さ。現在の日本では考えられない状況の中で、ネパールの

人たちは暮らしている。釈迦の母親は釈迦を産んだ後、すぐに死んだと言われているが、釈迦の時代からネパールは変わっていないと言えるだろう。

ダマック市内のブータン難民キャンプでは「食べ物がなく、配給日の3～4日前はおかゆだけの食事になる。ブータンに帰りたい。」

と話す女性(28)に会った。レンガの家が多いネパールで、このキャンプにある家は竹で作った粗末なものばかりだ。配給を待つ人たちの長い列。そして難民は毎年増え続けている。

悲惨な状況をあげればきりが無いネパール。それだけに今回の子ども病院建設は大きな希望にもなるのだ。一国の未来を担う命を救う施設が新たにできるのだから。

起工式に駆けつけたネパール側のVIPたちの言葉は、いずれも喜びと希望に溢れていた。「もうこれで治療のために遠くへ行かなくてもいい」「ブッダ同様に、この病院が多くの人たちを救えると思う」「大き

子ども病院をまわっている
子どもたち



な特定の団体が出したのではなく、日本の一人ひとりが出してくれた大切なお金で建てられることを忘れてはいけない」「病院ができれば多くの人の働き口も増える。病院を中心に町も発展する」「子どもを育てていくように、私たちもこの大切な病院を育てていこう」プトワール市長、副市長、地元商工会議所の会頭、厚生大臣……。多くの人が嬉しさをかみしめた。

さらに病院着工までには多くの人々の苦勞と協力があつた。病院の設計を無償で引き受けてくれた世界的建築家・安藤忠雄さんは「少しでもお役にたつたことを光榮に思っております。日本とアジア諸国との関係は、直接的な対話を通してボランティア活動を実践されてこられたAMDAの先生の方々のように、われわれも今後自分たちの仕事を通じて目に見えた対話をもって交流を深めていければ幸いです」というメッセージを起工式に寄せてくれた。私たちが提唱してきた「目に見える援助」が少しずつ広がっていることを実感できる言葉でもあり、取材していた私自身も勇気付けられるメッセージだった。



子ども病院建設予定地

【一人の医師】

私は起工式の前々日、国際電話で故篠原明さんの母・浪枝さん(60)、兄・裕之さん(37)と話をした。篠原さんは子ども病院建設の基本計画を作成し、自身もネパール・ダマック市のAMDA病院で3ヵ月間、ブータン難民の治療に従事。しかし、96年11月に31歳の若さでリンパ腫で亡くなった。その1年後に起工式は実施された。浪枝さんは「感無量です。本当に夢のようです。明は末っ子で、いつまでも子どもだとばかり思っていたから、生前に聞かされていた病院のことも本当にできるのかしらと思っていたのに、それが実現するなんて。明はまだ生きているような気がします」と話してくれた。歯科医をしている裕之さんは「弟から医師の原点を教えられた気がします。医師として焼きもちすら焼いてしまう」と話し、浪枝さん同様、電話口で声を震わせた。病院にはさまざまな人の夢も込められている。

【これからの重責】

しかし今回のネパール行では厳しい言葉も聞いた。JICA、JMAからネパールに派遣されている医師・神馬征峰さんは私に「病院だけでは救済に限界がある」と話した。医療は命を救うが、それ以上のものは生み出しにくいと言うのだ。「医療は消費です。本当にその国を豊かにするためには、それだけでは足

りない」と。そして病院完成後、病院を運営していくために越えなければならないハードルを指摘した。

- ①途上国にありがちな政変などで政権交代しても病院の運営に影響が出ないようにする。
- ②赤十字など現地の他のNGOを巻き込み、定着を図る。
- ③派遣された医師だけでなく、多くの他の医療従事者の環境を保全するためのマンパワーの確保。
- ④予算の確保と使い方をしっかり把握する。

など、途上国での運営の厳しさ、困難さをうかがわせる内容だ。

実際、病院運営のためのハードルは日本国内でも高く、通常の施設以上の義務が課せられている。医療廃棄物の処理、電気機器や施設そのもののメンテナンスなど、素人の私が考えても途上国で病院を運営することの大変さを簡単に想像できる。

さらに、病院で救った命を大きく成長させていくための教育施設の充実など、多くの人々を救うため

には、まだまだ途方もない時間と手間が必要だ。AMDAも途上国での教育普及のためさまざまな活動を展開しているが、その活動の規模をもっと大きく、息の長いものにしていかなければならない。

〔未来に向かって〕

今回の起工式は多くの人たちの心の中に、新たな希望と行動力を与えてくれるはずだ。寄付を寄せてくれた多くの人々が、おそらく驚いているのではないか。「病院が本当に建つのか」と。しかし誰でもほんの少しのやる気と善意があれば、多くの人々の命を救い、守り、育てていけるということが今回証明されたのである。

一人ひとりの心の中で生まれた小さな明かりは、病院建設後、さらに大きな明かりとなり、多くのハードルも越えていけることだろう。

ネパール養護学校建設プロジェクト

AMDA 高校生会からのご協力をお願い

AMDA 高校生会は、AMDAのネパール子ども病院とそれに併設する養護学校の建設プロジェクトに参加することになりました。

そのため今年8月にネパールへ視察に行き、そこで身体に障害を持つ子どもたちとふれあいました。ネパールには養護学校がほとんどなく、障害のある子どもたちが教育を受けられない状態にあり、できるだけ早い養護学校建設の必要を感じました。

現在、高校生会ではネパール養護学校建設のための募金活動や、使用済テレホンカード・書き損じ葉書・未使用切手収集を行っています。

どうかご協力をお願いいたします。

AMDA 高校生会
代表 三原 洋一

AMDA 高校生会連絡先

〒701-12

岡山市櫛津310-1 AMDA 事務局内

TEL 086-284-7730

FAX 086-284-8959

③ 毎日新聞 ③

1997年(平成9年)11月6日(木曜日)

ネパールに養護学校を

AMDA 高校生が呼び掛け

国際医療援助団体、AMDA本部・岡山市、アッシュが参加し、AMDA本部でボランティア活動をしてい



ネパールでの養護学校建設を目指し話し合うAMDA高校生会メンバー＝岡山市のAMDA本部で

る。今年8月に6人がネパールを訪れ、養護学校やストリートチルドレンの現状を見て回った。帰国後、養護学校の併設を提案、建設予定、現地を訪問した同会代表の塚山一博(16)は一生懸命に話しかけて、子どもたちは驚かされた。僕たちも何か役に立ちたい」と話している。問い合わせはAMDA本部内の同会(086・284・7730)。

〔三原 隆宣〕

篠原基金でネパール保健医療推進へ

AMDA 篠原基金報告

青年医師の遺志 基金に

「AMDDA」仲間たち創設

「私は夢見ている。いつかこのダマックの丘に世界各国から医療従事者が集まり、経験を分かち合い、互いの理解を深め共に発展していく。そんな日が来ることを」。篠原さんは生前、こう話していた。実現に近づいたネパールの小児病院建設や婚約者との挙式も果たさず、急逝したが、篠原さんは多くの人々の心に今も生きている。(社会部 吉村剛史)

昨秋、青年医師が大坂で息を引きとった。ネパールなど世界各地の発展途上国で小児科医療に奔走した篠原明さん。三十一歳だった。その遺志を未来に引き継ごうと、NGO(非政府組織)の多国籍医師連絡協議会「AMDA」(菅波茂代表、本部・岡山市)は十六日、途上国でのボランティア活動を志す医療関係者の育成基金「篠原基金」(仮称)の設置を決めた。篠原さんは昨年十一月二十一日に入院先の関西医科大学で、悪性リンパ腫(し)で死去した。

医師だった父親(故人)の影響で「満足な医療を受けられない途上国の子どもたちのために働きたい」と関西医科大学に進学。卒業後の平成四年にAMDAの会員となり、ネパールの小都市、ダマックで医療活動。プトル市に小児病院を建設する計画などに奔走した。小児病院は建築家、安藤忠雄さん宅が無償で設計。今春着工の見通しだ。

基金設立は、母親の浪枝さん(五十)がAMDAに香典など三百万円を寄贈したのがきっかけ。AMDAの田代邦子・広報局長は「途上国に目を向ける日本人医師が少ないことを嘆いていた篠原さんにこたえたい。しっかりとした基金にしたい」と話している。

問い合わせは「AMDA」(0866・284・773)へ。基金への協力は郵便振替(02501214070709)「AMDA」篠原基金。

途上国の医療ボランティア



ネパールのダマックでAMDAの活動をしていた篠原明さん。篠原基金の設立で思いが受け継がれる(平成5年撮影)

病院着工見ず急逝

君の夢 忘れない

初めて篠原さんにお会いしたのは平成五年、ネパール・カトマンズ。宝塚市民が救急車を現地医療法人に贈る式典を取材したときだった。素足にゴムぞうりをはき、背中に「AMDA」の文字が刺繍されたTシャツを着た。初めは篠原さんにお会いしたのは平成五年、ネパール・カトマンズ。宝塚市民が救急車を現地医療法人に贈る式典を取材したときだった。素足にゴムぞうりをはき、背中に「AMDA」の文字が刺繍されたTシャツを着た。

「援助」などではなく、形だけの豊かさの中で失ったものを学ぶために、日本人は進んで発展途上国に出るべきだと書いた。君の夢 忘れない

夢に覚めた天先だった。入院を繰り返す日々が続いたが、体に打ち込んで中国、タイ、インド、ケニアなどを訪れた。

放射線治療で頭髪が抜ける前には、理髪店で坊主頭には、周囲には、病気のことは極力隠した。昨秋の葬儀と通夜には約七百人が参列。一緒に小児病院の建設に奔走した「AMDA」代表であるラシェメル・ポカレル医師からも「これは悲しいことではあるが、この言葉が寄せられた。母の浪枝さん(五十)は、僕の子でしたが一度、友人がパンを食ったときは、こみ箱から取り戻し『世界には百円あれば死なずにいる子もいる』とすごんだそうです。基金ではそんな気持ちを酌んでもらえたら、新しい位はを胸に、こう話した。

「無知、貧困のため治療を受け入れてもらえない。シレンマを感じる」

ネパールの医療 多難が、死亡率は一〇%、五歳未満で一般で総人口比の四割以上が十五歳未満の子も。子ども五割が栄養不良で、カトマンズにしかない。患者四百人にベッド一床といふのが現状だ。

篠原 明君のこと

～同窓生からの寄付金窓口を務めて～

飯岡 忠昭

篠原君とは中学1年～高校3年まで同じ学校（金蘭千里中学校・高等学校）で、中学2・3年の時は同じクラスでした。家も比較的近く、よく一緒に帰路につきました。また2人とも音楽を聴いたり演奏したりするのが好きだったため、時々お互いの家に楽器を持参してセッションをしたり、また学校のクリスマス会では紙と箆で作った楽器を手に、テープに合わせてThe Beatlesの曲を歌ったりしました。Paul McCartney&Wingsが初来日することになった中学3年の冬には、“お兄ちゃん・お姉ちゃん”に混じってS席1万円也のチケットを2人で必死の思いで手に入れ、大はしゃぎの毎日を送ったこともあり。残念ながらPaulの大麻不法所持により公演はキャンセルとなり、2人で泣く泣く払い戻しに行くはめになってしまいました。

お互いひょうきんなタイプで、笑いの絶えない毎日でしたが、今思えば彼は私より少し大人で、私のわがままにも合わせてくれていたことが多々あったように思います。...

* * *

97年2月17日のことです。いつものようにドタバタと仕事をしていた私のデスクの電話がなりました。中学・高校時代の恩師で現在は校長をされている辻本先生からでした。普通なら先生との久しぶりの話を楽しむところだったのですが、その内容はあまりにも衝撃的かつ信じ難いもので、私はほとんど言葉を失ったままでした。「あの篠原が死んだ？そんなバカな...」とにかくその日の産経新聞を観なさいとのこと、勤務時間中ではありましたが、会社の新聞を慌てて広げ、彼の記事を何度も読み返しました。

彼が亡くなってからおよそ3ヵ月たったその日、私は初めて彼の死を知ったのです。もちろん驚き、ショックを受けました。しかしそれだけではなく、彼がどんなことを考え、志し、実行していたのかを知り、このことが私の頭の中や身体や心やあらゆるところに入り込んで、あちこちで音をたてて弾けて

いるような...そんな気がしました。

新聞を読んだ私は、自分も何かしなくてはと、篠原基金の詳細を知るためその場ですぐAMDAに電話を掛けました。そして何度かやりとりをさせていただく間に、金蘭千里の同窓生に寄付を呼びかけようという話になったのです。理系と文系に分かれた高校3年以降、特に大学以降はほとんど彼と連絡を取り合うことがなかった私が取りまとめ役を務めるのはいささか気が引けましたが、少しでも協力できるのならとやらせていただくことにしました。

さて、寄付を呼びかける手紙を作成する時のことです。私の手紙に、新聞記事のコピーやAMDAからいただいた「国際医療協力」誌のコピーなど篠原君の軌跡が分かるようなものを添付したため8頁にもなってしまう、それを同窓生約150人分コピーしてホッチキスで留める作業はさすがに外注せざるを得ませんでした。もちろんそれなりの費用を覚悟の上で、私の会社のビルに入っているコピーセンターに発注したのですが、納品時の請求金額が見積額より大幅に少ないのです。不思議に思って尋ねてみると、責任者の方が趣旨に賛同して下さり、少しでも経費が少なくて済むように、と実費のみの請求に下さったのでした。ほとんど面識もない方からのご厚意には心から感激しましたし、また厳密に言えば寄付を寄せて下さったお一人ということにもなるでしょう。この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

発送後、電話・手紙・電子メールなど様々な方法で、私とはほとんど音信不通だった同窓生たちからもメッセージが続々と返って来ました。彼の死を知らなかったという人がほとんどで、そのメッセージの多くは「彼の死に衝撃を受け、また彼の志や業績に感銘を受けた」という内容のものでしたが、中には「自分の志を貫くことができた強さが羨ましい」というメッセージもあつたりしました。いずれにせよ彼の生き様が多くの同窓生の心に何かしらの影響を与えたのは間違いないようです。また、せっかく連

絡を取り合ったのだから久しぶりに集まろうという
ような話も出ており、是非実現させて篠原君の思い
出話に花を咲かせたいと思います。

5月の末をもって一応同窓生の寄付は締切りとさ
せていただいたのですが、この場をお借りして結果
の報告をさせていただきますと、59名（辻本先生も
含む）からの協力をいただき、寄付金総額1,936,500
円にもなりました。ご協力ありがとうございました。

寄付というものはお一人からの寄付金の大小を
云々するものではないと思うのですが、篠原君と縁
の深いAMDAネパール代表ポカレル氏に麻酔医療の
指導をし、子ども病院設立に向けても協力された間
嶋伸治君（まじま歯科クリニック開業）から100万円
の寄付がありましたことを報告させていただきます。

* * *

私の部署が社内の人権擁護推進事務局の役割を
担っていることもあって、部落差別問題をはじめと
する様々な差別について勉強する機会に恵まられま
した。そして「無関心」こそが差別を放置し、助長す
る最大の敵だという認識を持つに至りました。
AMDAが取り組まれている国際医療活動についても
同じようなことが言えると思います。私自身はもち

ろん、私の周りの人たちにも是非関心を持ってもら
えるよう、今回のことをきっかけに微力ながら努力
していきたいと思います。

AMDAの皆様のご健勝とご活躍を
お祈り申し上げます。

* * *

私はThe Beatlesを好きになったきっかけが小学校
6年のときに耳にした“HEY JUDE”だったことも
あってメンバーの中ではPaul McCartneyが好きだった
のですが、John Lennonの素晴らしさを教えてくれた
のが篠原君でした。特に“IMAGINE”を聴く時、篠
原君のことを思わずにはいられません。ひょっとし
たら中学生の頃から、篠原君はこの曲のメッセージ
を感じとっていたのかもしれませんが。

Imagine there's no heaven

It's easy if you try

No hell below us

Above us only sky

Imagine all the people

Livin' for today

You may say I'm a dreamer

But I'm not the only one

I hope someday you will join us

And the world will be as one

下記の篠原基金に関する記事は国際医療協力3月号に掲載したものです。篠原基金をより理解していただくために再度掲載します。

篠原基金 菅波 茂

「篠原基金」は亡き篠原医師のネパールの
母子保健向上への熱い志を生かすために発
足しました。篠原医師のネパールへの関わり
は「国際医療協力」1997年1月号に副代
表の山本秀樹氏が詳しく紹介しています。
この基金のきっかけは母堂が篠原医師の預
金を寄付されたことに始まります。これを
紹介した新聞記事を読み篠原医師の同窓生
の方々や親交のあった産経新聞記者による
キャンペーンをみた方々による暖かい浄財
が基本になっています。この基金はネパ
ールの保健医療に貢献する人達を育成する奨
学金として使われます。なぜなら篠原医師
自ら発展途上の母子保健医療に貢献する
ために熱帯医学などの海外研修を受けるこ
とを夢見て努力していました。AMDAは現
在ネパール東部のダマック市にAMDA病院
と附属医療従事者養成学校を運営していま
す。篠原医師がネパールの人達に3ヵ月間
の医療を行った病院です。この附属医療従

事者養成学校には僻地からの生徒もたくさ
んいます。また入学したくてもお金がなく
て、夢が実現しない貧しい人達がたくさ
んいます。これらの人達にとって篠原基金は
夢をかなえ、ネパールの保健医療を推進す
ることになります。

現在、毎日新聞が「AMDAネパール子
ども病院」建設キャンペーンをしています。

すでに多くの浄財が集まり、世界的に有
名な建築家である安藤忠雄氏のボランティ
アによる設計もすすんでいます。AMDAネ
パール代表ポカレル医師も3月末に留学を
終えネパールに帰国し、本格的な展開がせ
まっています。篠原基金で医療従事者
になった人達が働く病院でもあります。

一方、篠原医師の話をNHKのラジオで
聴かれた静岡県在住のH氏からも多額の浄
財をいただきました。これは篠原基金とは
別に、「AMDAネパール子ども病院」の運
営資金として使わせていただきます。この
病院が建設されるプトワール市は首都カト
マンズから400Kmも離れており、患者さん
に経済的に豊かな人達は多くいません。

病院の経営が逼迫することは明確です。こ
の資金は多くの皆さまからの暖かい御心によ
って出来上がった病院を、ネパールの女
性や子供たちのために、いつまでも健全に運
営していくための大きな助けとなるでし
ょう。

このように「AMDAネパール子ども病
院」には市民の方々の善意が寄せられてい
ます。その基軸の一つに篠原医師のネパ
ールの医療に対する熱い想いを感ずります。キ
リスト教の聖書にいう「一粒の麦」を感じ
ます。一方、プトワール市から40Kmの所に
釈迦の生まれたルンビニーがあります。仏
教のいう「緑の世界」を感じます。

いずれにしても、以上のような有難
い動きは「AMDAネパール子ども病院」
キャンペーンの毎日新聞、「篠原基金」
キャンペーンの産経新聞そしてNHKの報
道なくしては語れません。厚く御礼申し上
げます。

会員の皆様方にも「AMDAネパール子
ども病院」の建設と運営に暖かいご理解とご
支援を心からお願い申し上げます。

ネパール国パラメディカルトレーニングプロジェクト

ネパール看護婦学校・臨床検査技師学校

山本 秀樹

AMDA日本支部副代表・ネパール国プロジェクト委員長
学術委員会委員長代行・岡山大学医学部公衆衛生学

ネパールにおけるAMDA Hospital(ブータン難民救援事業)付設によるパラメディカル養成プロジェクトが1996年に始まり本年度で2年目にたった。AMDAビジネスミーティングに先立ち11月4-5日に現地視察および学生の実生活調査を実施したのでここにその現状を報告する。

<はじめに>

AMDA NepalはAMDAの支部の中で最も成功した支部であり、その活動の内容も多様である。AMDAにおいて看護学校・臨床検査技師学校ができるにいたった、これまでの活動の概略を示す。

1. ネパール国におけるAMDAの活動年表

- 1989年 ネパール人医学生来日 (Dr. ポカレル、前AMDAネパール代表)
- 1990年 ネパール支部設立
- 1991年 郵政省ボランティア貯金助成事業として
ビシュヌ村地域保健プロジェクト開始
- 1992年 ブータン難民救援プロジェクト開始
外務省NGO事業補助金
第2次医療センターとして15床で開始
- 1993年 タンコットプロジェクト開始(眼科診療)
サルライ地方の洪水救援プロジェクト実施
- 1994年 ルワンダにネパール人の医師派遣
ODA有識者評価事業にAMDA参加
(ネパールのトリブバン大学、結核プロジェクト)
- 1995年 ブータン難民救援医療センターについて
UNHCRと事業委託契約
病床を30床に拡張し、AMDA病院に名称を変更
- 1996年 ボンベイからネパールに帰国した元売春婦のエイズ感染者への医療・カウンセリング事業開始

サルライ地方の地域防災プロジェクト調査

AMDA病院を50床に拡張

プトワール母子病院事業準備開始

1997年 看護学校・臨床検査技師学校の建物に
草の根無償資金協力助成

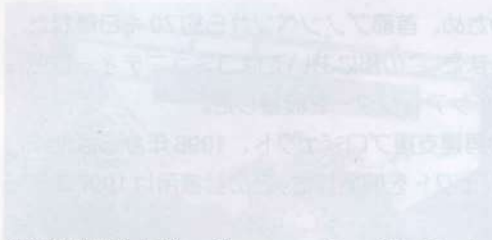
2. パラメディカルトレーニングプロジェクト

従来、ネパール国ではパラメディカルの育成は国立機関に限られていたが、その規制が90年代になって緩和された。AMDAネパール支部では医学部入学前にトリブバン大学のヘルスアシスタント養成コースで教官の経験があり、現在岡山大学留学中のDr. Nrimal Rimalらが中心となってパラメディカルの養成のためのトレーニングセンターが企画立案を行った。1995年に職業訓練を管轄するCTEVT (Center for Education and Vocational Training: 職業訓練協議会)にAMDA病院附属のパラメディカルの養成施設の申請を行った。

翌1996年にはCTEVTの認可がありAMDA病院附属の看護学校・臨床検査技師学校開設にいたり、定員40名の2年コース(18ヶ月)の補助看護・助産婦(Auxiliary Nurse and Midwife)、定員20名で1年コースの臨床検査技師(Lab assistant)養成コースの授業が始まった。日本からは、AMDAラボプロジェクト(伊藤恵子委員長)の早川典之氏らの臨床検査技師のボランティアによる臨床検査部門の支援で臨床検査実習用の機器として、顕微鏡などの日本の中古の臨床検査機器の寄贈や、技術指導を行った。また、日本の看護学生らもスタディーツアーとして同校を訪問して日本とネパールにおける交流も行われるようになった。

1997年には看護学校・臨床検査技師学校の建物に駐ネパール日本大使館からの草の根無償資金協力助成がおこなわれ、新校舎での授業開始となった。また、9月からは同校3つめのプログラムである、CMA

看護学校における授業風景 ▶



(地域保健士補、Community Medical Auxillary)のコースも開講となった。現在、より高度な技能を身につける Health Assistant (保健士), Staff Nurse (正看護婦)のコースも設立準備中である。

3. 学生への奨学金事業の必要性について

本トレーニングセンターは、事業の継続性を高めるために学生の授業料を収入にあてており、日本からの援助金には極力依存しない方針である。現行のコースの授業料(入学から卒業まで)は以下の通りである。ANM-18ヶ月で19,450ルピー、LAB-12ヶ月で20,500ルピー、CMA-15ヶ月で17,950ルピー(1ネパールルピー=2.1円)。ネパールの1人当たりGNPは200ドル(44,000円)程度であるからネパールの人にとっては相当な負担である。日本(1人当たりGNP35,000ドル)の看護学校が国立病院・日赤・済生会・医師会等の病院附属の場合は授業料が年間10万円程度で私立大学・看護大学でも年間50-100万円であることを考えるとネパールの学生にとってその負担が大きいことがわかる。ネパールにおける他の私立の看護・臨床検査技師学校もこれと同等もしくはそれ以上の学費を設定しているのが現状でAMDAの授業料が決して高額というわけではない。かといって、継続的な公的助成金がない以上、AMDAにとって自主財源としてこれだけの授業料を徴集することは学校運営上不可欠である。

現在の学生は、ダマック周辺の中流階層以上の子弟が多いと考えられる(詳細は現在調査中)。義務教育制度が整っていないネパールでは、貧しい家庭の子供は入学に必要な資格の中等教育はおろか、小学校さえ卒業できないことが多いのである。幸いに、東ネパール地区ではAMDA病院の評判は高く、在学中にAMDA病院で質の高い実習ができるということで学校開設2年目の新設校にも関わらず多くの学生の

応募がある。

各種奨学金が整備されると山間部からの学生や、恵まれない家庭の学生、孤児の学生も受け入れることが可能になると考えられる。UNHCRとの合意でブータン難民の子供を受け入れることも制度上可能になっているが、奨学金の問題もあり今年度は受け入れにいたっていない。ネパールに小学校を作る日本のボランティア団体やネパールの学校と姉妹校縁組みをしている日本の学校も数多くある。学校を終えた後の進路はどの学校にとっても大事な問題である。地域医療の中核となるパラメディカルスタッフはネパール全土で求められている。AMDAは他の団体との協力によって奨学金制度を確立して、AMDA附属学校の卒業生を真に必要な地域・階層に優れたパラメディカルスタッフとして送ることを行っていきたい。

今回の小生の訪問中に奨学金制度に関する会議を持ち、AMDAネパール支部も各種奨学金制度の設立について検討して合意に到った。次年度から、奨学金の準備ができ次第にブータン難民、孤児などの恵まれない階層の子弟から授業料免除に相当する奨学金を供与する予定である。あとは、これらの子供たちをサポートする「足長おじさん」を捜すだけである。現在、AMDA神奈川県支部が奨学金制度の有力なサポーターとして準備中である。関心のある方・団体の御協力を広くお願いしたい。

<参考文献>

- 1) 山本秀樹、ネパールプロジェクト報告、国際医療協力1996年8月号、40-42
- 2) 山本秀樹、平成6年度経済協力評価報告書、外務省経済協力局編集、1996年-ネパールトリブバン大 学医学部・同付属病院におけるJICA(国際協力事業団)の保健医療協力の評価

AMDA カンボジア支部報告

AMDAのカンボジアでの活動は、1992年、タイからの難民支援のため、首都プノンペンから約70キロ離れたプノムスロイ郡の郡病院で医療活動支援を行ったことから始まった。また、この郡においてはコミュニティーワーカーとの共同で、貧困層の子どもたちへの基礎教育を目的とするデイケアセンターを設置した。

1994年からは、プノンペン市内のシアヌーク病院で精神科病棟の再建支援プロジェクト、1996年からは地域全体の医療向上のため、AMDAカンボジアによる診療所建設のプロジェクトを開始した。この診療所は1997年7月よりAMDAカンボジアクリニックとして開院した。

いずれのプロジェクトも日本支部を中心として派遣された医師や看護婦、調整員とカンボジア支部のメンバーが共同で行ってきたが、1997年度より全プロジェクトは企画からオペレーションの段階までAMDAカンボジアのメンバーに任せられ、現地化されるに至った。

現在AMDAカンボジアでの主な活動は以下のとおりです。

1. AMDAカンボジアクリニック運営
2. デイケアセンター支援
3. プノムスロイ郡病院への支援（医療協力、スタッフのトレーニング）
4. シアヌーク病院精神科病棟支援（精神科薬剤提供、スタッフのトレーニング）

デイケアセンター報告

1997年9月23日

事務管理担当 CHEA SAORA

翻訳 荻野 千明

1. 活動

今月のセンターの活動として2つの主な活動を報告いたします。

1) 修繕

AMDAカナダ支部のDr. Williamよりカナダ基金からの助成を認められ、AMDAカンボジアはデイケアセンターのプロジェクトアシスタントとしてMr.Khoul Saroeunと、このセンターの修繕担当者としてMr.Samboを任命した。これによりセンターではフェンスの強化、プランコ、すべり台そして建物の修繕を行った。

さらにセンター内の敷地改良を行い、現在ではセンター内でバナナ、ヤシの木、マンゴー、その他雨季に育つ木々を栽培することができるようになった。

2) 教育

2人の看護婦は、教育資格に制限はあるものの、教育プログラムの日課の作成においてベストを尽くしてくれている。特に給食に関しては砂糖入り豆乳とお菓子などを提供している。

その他にもAMDAカンボジアスタッフは週1~2回センターを訪れ、技術的支援や、プロジェクトの全般にわたる支援を行っている。

2. まとめ

デイケアセンターの環境は大きく改善され、センター運営上の環境が整ったことを報告いたします。

さらに来月からは、今まで資金不足のため着手できなかった車道からセンターまでの道を舗装することを計画しております。



REPORT FOR DAY CARE CENTER OF SEPTEMBER '97

23 September, 1997

By Chea Saora

Administrator

1. ACTIVITIES

In this month the day care center progressed remarkably, and we noted in two activities:

1) Repairing

Since we had a permission from Dr. William Grut to use Canada fund, AMDA Cambodia has appointed Mr. Khoul Saroeun, project assistant for day care center and Mr. Sambo, official driver to repairing this center. They are both has cooperated for improving day care center ground by re-constructed fence, repairing swing, slipper wooden and building. After we had been the firm fence now in the day care center we can growing Banana, Coconut tree, Mango, and others raining season trees on the space area.

2) Teaching

Although the two nurses has a limited qualification for pedagogy, and they are both always try her best for helping us to make a daily schedule in education program.

Under help from Mr. Saroeun, this program. For additionally, we have been providing some foods separate in two kinds: Soy bean Juice mixed with sugar and cake. Otherwise, AMDA Cambodia staff has always shared their time to visit the center one or two day a week for providing technical assistant and overall of the project.

2. CONCLUSION

In this month I note that we have improved the situation of day care center greatly and perfect prepare of management for work done. And in the next month we will connect a pave from main road to the day care center, from past to present the pave has never been repaired according to lacking of fund.

第4回おかやま国際貢献NGOサミットを終えて

国際貢献トピア岡山構想を推進する会
理事・サミット実行委員会副委員長

藤木 茂彦

地球上には災害や紛争や貧困などを理由として人道的な支援を必要としている地域が数多くあると言われています。この「おかやま国際貢献NGOサミット」は、そのような地域の現場に密着して活動を行っているローカルNGOと呼ばれる人々のネットワークをつくりだすことを目的としています。このNGOサミットを主催する「国際貢献トピア岡山構想を推進する会」（会長谷口澄夫、通称「トピアの会」）は、医療や福祉、教育、宗教など、ヒューマニズムを大切にするという岡山県民の特質を基盤とし、世界に発信する街づくりを目標として、菅波代表などの呼びかけにより1993年に設立されました。翌年の秋に第1回NGOサミットを開催し、今年が第4回目。海外から16ヶ国22名が参加し、10月4日から7日まで、「水環境」をテーマに開催されました。このサミットの運営には毎回多くの皆様のご協力をいただいています。この紙面をお借りして皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。



倉敷チボリ公園での開会式に向かう参加NGO
— 10月4日（倉敷チボリ公園）



国際姉妹校推進会議
— 10月6日（岡山プラザホテル）
新たに3組の姉妹校が結ばれました。



サミット初日に岡山駅に設置された「サミットインフォメーションデスク」 — 10月3日（岡山駅構内）
ここで海外から到着するNGOの受け入れも行いました。



総括会議 — 10月7日（岡山国際交流センター）
今年の会議の総括報告が発表され、今後の運営について討議がなされました。



主テーマである「水環境」に関するグループディスカッション
 10月5日（川崎医療福祉大学）
 一般市民を交えて真剣な討議が行われました。



サミット初日に開催された「車いすウォーキング」
 — 10月3日（岡山駅周辺）
 福祉の街づくりへのデータづくりとして、多くの高校生が協力してくれました。

第4回 国際貢献NGOサミット総括報告（抄約）

1. 第4回を迎えたサミットは、医療、教育、宗教について環境問題を取り上げた。環境問題の中でももっとも身近な水環境をテーマとして、8カ国のNGOより活動報告がなされた。グループ討議では一般市民および日本側専門家も加わり、生存の基本的な要件としての安全な水の確保と環境に負荷を与えない処理の方法などについて討議がなされた。地球環境の改善のためにNGOが貢献できることについて、環境情報の集積と保全のための技術的なサポートを行うための、世界環境情報サポートセンターの構築を推進することが岡山ユネスコ協会より提案された。
2. 今回のサミットはトピアの会の日本側のネットワークの拡大をめざして、初めて人道援助ひろしま国際フォーラムと連携して開催された。広島フォーラムで設立された新たな組織JANANの初会合にINNEED/APROのメンバーが加わり、今後APRO（アジア太平洋緊急救援機構）、JANAN（日本NGO/NPO協議会）、INNEED（国際人道援助ネットワーク）が、世界各地における諸問題について情報交換を図り、問題解決について共に協力するための協議の場を、少なくとも年に1回開くことが確認された。また、具体的な取り組みとして、インドネシア森林火災による大気汚染の被害者に対する支援活動を、3者を基軸とした国際ネットワークにより開始することが確認された。
3. 国際姉妹校推進会議では新たに3組の姉妹校の締結、すでに活動を始めている学校からの報告、および海外の教育現場の現状報告などがなされた。子供たちの国際協力、国際理解を広げ、思いやりの心を世界に向かって発信してゆくことの大切さが確認された。この1年間に締結された姉妹校は、昨年度の7校に加えて11校、計18校となった。
4. 人道援助宗教NGO会議では、海外の社会事業に取り組むNGOから活動内容の報告があり、また、国内各団体の行っている国際貢献活動が報告された。また、各団体間での協力した取り組みとして、北朝鮮の食糧危機に対する支援を行うことが決定された。また、今後ともこのような協力の輪を広げて行くことが確認された。
5. 今後に向けて、このサミットの継続的な開催を基軸に、APRO/JANAN/INNEEDの協力により、ネットワークの拡大と相互の活動支援を進めることが確認された。

1997年10月7日

参加者一同（海外参加NGO16カ国22名）
 （国内（県外）NGO 12名）
 （3日から7日まで延べ参加人数 900名）
 国際貢献トピア岡山構想を推進する会

第3回アジア太平洋緊急救援機構 (APRO-Net) フォーラム報告

事業推進局 伊藤 英志

アジア太平洋緊急救援機構は、1995年10月8日に岡山にて自然災害等の緊急時に迅速に対応できる国際的な医療・救援ネットワークとして発足した。医療・救援活動を主に展開しているAMDAが、阪神大震災の教訓をもとにアジア太平洋地域の緊急救援活動のネットワークの強化の必要性を痛感し、アジア太平洋緊急救援機構の発足を提言したことから始まった。これまで過去2年間の地道な活動により、現在では13カ国のアジア太平洋諸国の72のNGOがこのネットワークに参加するにいたっている。

APROの目的は、以下の通りである。

- (1) 災害や戦争等の際に緊急的に出動できる民間団体のネットワークの確立
- (2) 緊急救援活動に必要な人材と活動拠点、交通・通信手段、救援物資などの整備
- (3) 各国政府との協力関係の強化

第1回アジア太平洋緊急救援機構フォーラ

ムはAMDAの拠点である岡山にて行われ、第2回目のフォーラムは、沖縄県にて開催された。第3回を迎えた今年は、国際貢献構想を県政の柱の一つとする広島県が主催した「人道援助国際フォーラム広島」の一環として、10月4日(土)と5日(日)の2日間にわたって東広島市にある広島国際協力センターにて開催された。

今回のフォーラムでは、日本国内の政府、自治体および民間関係機関、ならびにアジア太平洋地域において緊急救援活動を行なっているNGO及び世界レベルで援助活動を行っている開発NGOに参加を呼びかけ、11カ国から25名が参加した。

今回のフォーラムでは過去2回の会議の焦点であった自然災害に対する知識及び経験を生かし人的災害(オイル漏れ、環境水質汚染、ガス爆発等)に焦点を当てて討議し、アジア太平洋緊急救援機構が備える対応規模の拡大を図ることを目的とした。

今回のフォーラムにおいて人的災害に焦点を当てることになった経緯として、1997年2月に日本海で起きたナホトカ号重油流出事故や1997年4月に日本で起こった放射性物質漏れや産業廃棄物汚染などが、地域住民と環境に重大な被害と影響を与えたことによる。この種の災害は、高度に発達した技術社会では

いつでも起こりうる可能性がある。

また、農薬やその他の化学物質使用によってもたらされる環境汚染は人々の健康を著しく脅かすものであり、その被害は現代の科学技術の普及により先進国のみならず、発展途上国においても深刻な



ものになりつつある。

以上のような状況を踏まえ、今回のフォーラムは、自然災害時の対応を主眼にしてきたアジア太平洋緊急救援機構の活動範囲を拡大し、その機能を充実させる契機となった。

フォーラムは2日間にわたり、各国の現状および実例の報告、人材育成手法の紹介、情報通信技術の活用手法の報告等を踏まえて、分科会、全体討議に臨み、宣言文を採択し盛会のうちに終了した。

現在、インドネシアを中心に広範囲で被害が出ている森林火災による煙害への対応策が関係参加団体の間で検討されている。

1997年アジア太平洋緊急救援機構フォーラム宣言文

1 1997年アジア太平洋緊急救援機構（APRO）会議を開催するに当たり、御尽力くださった後援団体、ご来賓そしてボランティアの方々に深い感謝の意を表明する。特にAMDA、広島県国際交流課、外務省、国際協力事業団（JICA）、自治省、川崎医療福祉大学の緒方正名教授、世界環境センターそしてフィジー国全権大使閣下に心より感謝申し上げる。

2 我々は自然災害への対応と地域コミュニティにおける災害対策を万全なものにするために、この時までAPROのネットワークを通じて活動を行ってきた。特に国際貢献を目指す岡山県、沖縄県そして広島県のゆるぎないご支援により、我々はこれらの活動を行う事ができた。

3 第3回APRO会議において、我々は、50年以上も前の困難な時期に受けた支援に対して恩返しをするべく、国際貢献をしようという広島の人々の献身的努力に心を打たれた。我々は世界平和への使命を基に国際貢献を推進するという広島県の政策を全面的に支援するものである。そして広島県がAMDAのような非政府団体とのパートナーシップを強化されることに対してさらなる努力を払う決意を持つに至った。

4 その上、外務省、JICAとその緊急援助隊、自治省等を通して日本政府とも共同活動するという必要性和機会があるということが認識できた。我々は自然災害や緊急事態の損害を最小限にとどめる事ができるように個人ベースならびに団体としての能力を構築しながら、政府機関との共同活動の可能性を模索することとする。

5 自然災害や複合災害とは別に、人間の健康や環境を継続的に脅かす科学技術災害がある。例えば、インドネシアのカリマントン、スマトラ、ジャワそして東イリヤンで起こっている森林火災によって5万ヘクタール以上の森林が破壊された。さらにその火災によってブルネイ、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ等近隣諸国とインドネシア本国において多くの人々が目および呼吸器系の炎症を患っている。

6 飽くなき工業化推進策、都市化の波そして爆発的な人口増加等によって、アジア太平洋地域での科学技術災害の危険性は次第に広がっていると言えよう。残念ながら我々のメンバーの中には科学技術災害に関する基本的な予防策や被災者に対する支援を行う効果的な戦略を得る機会がないものもいるが、同時にこの分野で経験と知識を有するものもいることがわかった。中でも重油流出による健康への影響、ガス漏れによる2次火災の予防と対応、政策担当者や第1次救援者などさまざまな関係者との情報の取得と供給そして一般的な水質汚染の確認などの

分野で研究が進められている。科学技術災害に効果的に対処するためには、政府、企業そして地域コミュニティの間の信頼関係が構築されることがもっとも重要な事であると専門家は強調している。

7 アジア太平洋緊急救援機構は、以下の自然災害および人的災害に対する行動計画について決議した。

7.1 即時行動計画

7.1.1 今回のインドネシアの災害に対して、緊急救援活動を実施し、再建と復興に求められる事項について調査し、事態の再発への防止と対応体制を検討することを目的としたチーム*1を現地に派遣し、7.1.2 今年末に大雨とか洪水が予想されるペルーに対して、早期警戒システムを整備する。

7.2 短期計画

7.2.1 科学技術災害に対して、被害が予想される地域、組織的能力、専門家と研修、効果的かつ費用対効果のある技術、法制度についてのデータベース*2について検討し整備し、

7.2.2 インターネット・ホームページの整備と適正可能技術、および24時間体制の通信手段の確保*3により、緊急事態対応と後方支援のための通信情報システムを構築し、

7.2.3 自然災害もしくは人的災害による人的被害の軽減、自然災害環境破壊と経済損失に関わる、国の内外での組織・機構とのネットワークを構築し強化する。

7.3 中期計画

7.3.1 次回会議においては、本機構および科学技術災害が起りうる地域での他の組織・機構の事態対応能力向上にむけたプログラムを進展させ、

7.3.2 適性かつ持続性のある活動内容を立案し実行に移し、

7.3.3 科学技術災害に対応する法整備および政策立案のための手法を明らかにする。

8 最後に、これらすべての行動計画を通じて、アジア太平洋緊急救援機構の構成団体は、全世界的な理解、協力、そして究極的には平和へ向けて邁進することを希求する。

9 1997年10月5日、広島にて調印。

*1 Global Care、インドネシア赤十字、AMDA日本支部、AMDAインドネシア支部が検討する。

*2 Dr. Hartigan-Go（AMDAフィリピン代表）およびDr. Nirmal（AMDAネパール支部員）が担当する。

*3 AMDA日本支部が調整する。

注）本宣言文は英文が公式文であり和文による宣言文は非公式訳となっております。

1997年度 AMDA・東京都・立川市合同防災訓練報告

防災訓練実行委員長

中西 泉

1. 目的：大災害に際しAMDAと行政との間の医療救護活動を中心とした合同作業の可能性を検討する。

2. 概要：期間：1997/8/30～9/1

(1) AMDA防災訓練事前講習会（東京ヘリポート）
(8/30)：

トリアージ講習、ヘリコプター傷病者搬送講習、情報通信講習

(2) AMDA・茨城県・守谷町合同総合防災訓練
(8/30,31,9/1)：

トリアージ、航空機による医療救護班搬送、情報通信

(3) AMDA・7都県市（埼玉県・行田市）合同総合防災訓練（9/1）：
航空機による乗り入れ、搬送

(4) AMDA・東京都・立川市合同総合防災訓練
(8/31,9/1)：

医療救護所でのトリアージ、国立病院東京災害医療センターでの医療救護活動

（ラボプロジェクト合同参加）

3. 方法および結果：

詳細は1997年度防災訓練報告集参照

4. 考察：

(1) 訓練会場について

今年は行政との訓練会場が3箇所となった。昨年（東京都、埼玉県）より1箇所増えたため参加人員も分散を強いられ、茨城・東京を掛け持ちした参加者もいた。同一時期に行われる行政との合同訓練として3箇所が限度であろう。

航空機参加に関しては業界の現状を把握し、どの航空会社とどのような訓練をいかなる金額で行うか十分に交渉する事が必要である。行政側からの航空機参加訓練要請の場合、それに伴う経費に関しては行政に要求する事も必要であろう。

(2) 事前講習会について

昨年の防災訓練において、防災訓練前夜および当日のトリアージ講習会が訓練を成功に導いた例に倣い、今年は東京ヘリポートを事前講習の場を選び、トリアージも含め幾つかの事柄に関し講習を行った。

今後もこの講習会を行うべき理由は次に述べるごとくである。

- a. 参加者に一体感を生む。
- b. 非会員にもAMDAを知ってもらえる機会となる。
- c. 今回のBHNのような他のボランティア団体と知り合う機会が生じ、協力



オリエンテーション

関係が深まる。

- d. 特にトリアージに関しては認識の共有により実際面で他団体より迅速に行動できる。
- e. 情報通信の器具、方法に馴れる機会となる。などである。

(3) 実際の防災訓練について

- a. ヘリコプターによる医療班搬送訓練：昨年に比べ円滑に行う事ができた。今後は状況設定もふくめ、現実にはヘリコプターを飛ばす際の障害となっている事柄を解決するため、対外的に働きかけて行く取り組みが求められる。



b. トリアージ訓練：昨年に引き続いての講習会により、実際の防災訓練では昨年に比べ混乱が少なかった。事前教育の重要性を再認識。

c. 国立病院東京災害医療センターでの医療救

護訓練：東京都は昨年よりボランティア医療救護班受入訓練を導入した。(昨年は航空機による乗り入れ受入訓練)。今年は一気に国立病院をフロント病院に見立てての発災直後を想定しての超急性期訓練であった。行政の我々への期待の表われとも取れよう。結果は東京都病院協会傘下の救急病院の協力により予想以上の成績を上げる事ができた。AMDAにとって刺激的な訓練であり、一度は味わうべき訓練であった。機会を与えてくださった、邊見副院長はじめとする東京災害医療センタースタッフの熱意と度量に謝意を捧げる次第である。しかしながら現実にAMDAチームとしてかかる事態に対応する事は稀であり、個人として遭遇する公算が大きい。したがって組織としての訓練には、発災直後よりも数時間を経て現地入りした想定訓練が望まれるのである。

d. 情報通信訓練：衛星方式携帯電話の可能性を実証できる訓練ができた。行政の唱える防災無線に比べ、画像を含めた多種情報を大量に通信できる点で今後必須であり、その扱いに習熟する事が求められるよう。

5. 提言：

- (1) 東京都の防災訓練には今後も参加する。
- (2) ヘリコプター訓練に際しては特に事前の話し合いをしっかりと行う。
- (3) AMDA 岡山本部を中心とした訓練も行う。
- (4) 発災数時間後を想定した訓練の実施を行政に提

案。

実際に大災害が起る事を仮定するとき求められるもの：

- (1) 発災時被災地に居るAMDA会員がどこへ行くべきかの訓練 (例えば近傍ではどこの医療機関に個人として救援に駆けつけるかなど)
- (2) AMDA支部設立の推進：被災地にあっては拠点作りを早め、非被災地AMDA会員に発信する事ができる。ヘリコプター誘導をする事ができる、等。
- (3) 航空自衛隊との連携：非常時には航空自衛隊が航空管制主導権を握る。(事前登録)
- (4) 被災地病院に隣接して救援施設開設が実際的である。
- (5) トリアージ訓練の徹底。
- (6) 衛星方式携帯電話による情報通信講習会開催。

6. その他

- (1) AMDA・全日本病院協会合同訓練について：
現在北海道の全日本病院協会加入病院と交渉中である。1～2月を予定している。
北海道での開催困難なときは町谷原病院に会場提供の意向あり。
- (2) 資金について：
厚生省科学研究費が支給されなくなったときを想定し、訓練資金をどうするか検討する必要がある。

第13回 AMDA 国際ビジネスミーティング報告

◇
AMDA 日本支部副代表

山本 秀樹

1984年に発足したAMDAの13回目の国際会議がAMDAネパール支部のホストで11月7-9日の3日間ネパール国カトマンズ市においてボリビア、ブラジル、カナダ、インド、インドネシア、日本、フィリピン、スリランカからの海外からの出席者9カ国12人に加え開催国のネパール支部約30名が出席して活発な討論が行われた。日本からは、菅波茂（AMDAインターナショナル代表）とDr.Pancho Flores（AMDAインターナショナル事務総長）がAMDAインターナショナルを代表して出席し、小生がAMDA日本支部の代表という立場で

出席した。また、AEA（アジア教育支援の会）の森暢子代表以下6名もオブザーバーとして一部のプログラムに参加した。日本留学中のDr. Rimalも本会議に会わせて一時帰国した。

本会議においては、来賓としてネパール国保健大臣、WHOネパール駐在代表、駐日ネパール大使であるマテマ大使が出席したほか多くのネパールの報道関係者も取材のために訪れネパール国におけるAMDAへの関心の高さがうかがわれた。今回の会議のトピックとしては"Child to child motivation"（こどもからこどもへの動機づけ）が選ばれた。このことばは、保健医療分野では耳慣れない用語である。これは、従来行われていたような、保健医療従事者や教育者である大人が一方的に子どもに知識を与えるのではなく、子どもの持つ主体性をいか

に引き出して、年長児から年少児、あるいは同年代の子ども同士での相互作用によって子どもが保健医療に有益な知識や行動を身につけるようにしむけるものである。ネパール国におけるこどもの健康ならびに"Child to child motivation"による健康教育の事例報告が3名の著名なパネリストであるMr. Upreti (CDS), Ms.N. Bhattacharya (Red Barrna, director), Prof. Adikali (トリブバン大学医学部小児科学教授)によって行われた。今回選定されたテーマは、AMDA各国の出席者にとっても「子どもの健康問題」は直面

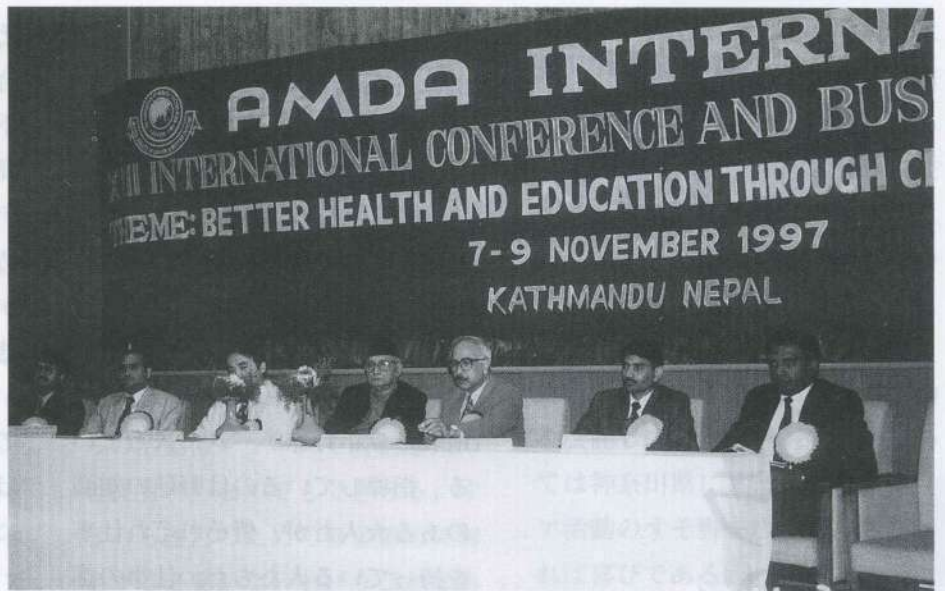
している大きな問題であり、多くの質問や活発な討論が行われ参加者の関心が高いことがうかがわれた。また、現在AMDAネパール支部と日本支部の間で「ネパール子ども病院（仮称）」プロジェクトが進んでおり国際会議に先立つ11月6日に着工式が行われたばかりで

あり、ネパール支部でも子どもの健康問題を最優先で取り組んでいるという力強い決意を感じることができた。

また、AMDA内部の実務的な会合においては、Dr. Floresよりこの一年のAMDAインターナショナルの活動報告と各国支部代表による各国支部の取り組みの概要の報告が行われた。日本支部としては、日本国内での国内防災プログラムの取り組み、ODAであるJICAとのフィリピンやザンビアにおける連携事業、AMDA企画商品の事例報告、情報通信プロジェクト



菅波代表より21世紀に向けたAMDAインターナショナルの将来構想と基本戦略が出席者に提示された。菅波代表より、提示された基本構想として、



(1) AMDA, GNP(Global Network for Partnership)の推進(2)ABC(AMDA Bank Complex)の世界標準化の推進(3)UNV(国連ボランティア計画)とAMDAの共同による2001年のInternational Volunteer Yearの制定(4)UN category I(国連経済社会理事会の諮問資格1)の取得をめざす(5)AHO(Asia Humanitarian Organization: 仮称)の設立の5項目の提唱が行われた。(詳細は次号で報告予定)

それから、現在AMDAが国際規模で進んでいる問題を解決するために、以下の専門委員会、すなわちインターネット・電子メール委員会(秋山一成ブラジル支部委員長)、AMDA病院ネットワーク委員会(バンラデシュ支部Dr. Nayeem委員長)、AHO設立推進委員会(フィリピン支部Mr. Gilmore委員長)の設立が決まった。また、AMDAの多くの支部がある南アジア地区にRegional Officeを置く準備委員会を作ること、新しいAMDAの支部(chapter)としてザンビア支部が認められた。そして、来年の14回のAMDAの会議の開催をインドネシアで行うことが承認された。

このように、AMDAの活動内容がますます進展する一方、各支部ともに活動資金の確保に手を焼いており、日本支部やネパール支部、フィリピン支部以外には独立した事務所を作り有給職員をおいてないところがほとんどで、会員一人当たり5ドルという会費も払えないという支部もあることが明らかにされた。AMDA国際本部とはいえほとんど全部の経費を

日本支部に財政面を依存している構造から脱却するにはもうしばらく時間が必要で、次期会議への課題としたい。

最後に、本会議をホストしてくれたAMDAネパール支部および本会議に出席する機会を与えてくれた方々に感謝申し上げる。

AMDA
使用済みテレフォンカード
収集キャンペーン


..... 1997年12月末まで

AMDAでは、今年1年間、あなたもできる国際協力の一環として、使用済みテレフォンカード収集キャンペーンを行うことになりました。

あなたの周りでねむっているテレフォンカードはありませんか。まわりのみんなに声をかけ合って使用済みテレフォンカードを集め、AMDAまで送ってください。よろしくお願いいたします。

お問い合わせは、AMDA本部まで
 〒701-12 岡山市橋津310-1
 TEL 086-284-7730
 FAX 086-284-8959

収益金は途上国の子どもたちへの医薬品等の費用となります。



小林米幸の クローズアップ

ボランティア考

ボランティアとは報酬なく活動することであり、報酬を受け取ればボランティアではないなどという意見が巷にはあるようであるが、このように有償か無償をめぐる意見を戦わせることは時間の無駄にすぎないし聴いていて滑稽だ。ましてや英語のボランティアという単語の起源までさかのぼって解説することなどテレビ討論会の文化人にはふさわしいが、聴いていると滑稽を通り越して空しくなってくる。過去の定義がどうであろうと言葉の持つ意味は時代と共に変わっていくからだ。

ボランティア活動にはさまざまな活動がある。私の子どもたちは地域の少年野球チームに入っている。指導しているのは野球の知識のある大人だが、皆それぞれ仕事を持っている人たちだ。仕事の都合によっては練習にでてこれない時もある。そして全くの無報酬である。好きだからこそできるのだろう。このような野球の指導や休日の公園の清掃などは無報酬であってもできるタイプのボランティア活動といってよい。これに対してAMDAやAMDA国際医療情報センターが行っている活動に共通しているのは「一日たりとも休めない」タイプの活動であるということだ。AMDAではさまざまな海外プロジェクトを支え、組織の運営を支える事務局員なくして活動がすすまない。AMDA国際医療情報センターには多い日は一日40件以上の外国人からの医療相談がある。相談を受ける相談員はおのおの外国語のスペシャリストだが、今日は来るが明日は都合が悪くて来ないというのでは連日の相談に対応することはできない。またここでも組織をきりもりする事務局員が必要である。このような組織の核となる人々に生活の不安をなくして活動に打ち込んでもらうには例外を除けば有給雇用という形態をとることになる。さらに

その周りに無報酬でもよいから都合の良い時間帯に活動に参加して下さるといふ善意の人々がいて組織は動いていく。ゆえにボランティア団体といえども働く人のために社会保障制度を充実させていかねばならないし、倒産という事態もありうる。営利こそ追及しないが資金集めをはじめとして運営のためにやっていることは企業とはあまり変わりがないということになる。この数年執行部が心を砕いてきたこと、それは組織の運営＝経営なのである。

AMDAという組織の長所はいい意味でいいかげんなどところがあることだと思う。日本にはAMDAよりもはるかに歴史の長いボランティア団体がいくつもある。そのかれらがどうして日本を代表するような、国民的な団体として活動が発展できなかったのだろう。ある組織は一つの宗教支持者のあつまりとして、ある組織はひとつの機能集団として存在してきたことと無縁ではないだろう。また組織によっては個人の諸事情に理解を示すことなく画一性を迫ることにより、10人入ってもほぼ同数の人が離反していき、悪しき少数精鋭主義に陥りいつまでたっても活動のすそ野が広がらないという状況にもがいていたような気がしてならない。

考えてみれば単純なことではあるが、たくさんの方が少しずつ力を合わせて初めて大きな仕事ができる。少ない人数で日常生活に無理をして活動していればいずれ破綻することは目に見えている。ゆえにたくさんの方がAMDAに

入ってきてくれるよう間口を広くして待っていただかなければならない。その第一条件がいい意味での「いいかげんなところ」を残しておくことである。専従者以外は個人のプライバシーを最大限に尊重し、やりたいときにやる、やりたくないとき、やれないときはそっとしてあげることが大切だ。恋人とのデートや家庭での出来事がAMDAの活動より大事と考えている人がいてもそれは当然である。このようなごく一般の人が多数加わってくださることは、組織の中に社会の常識が行き渡ることであり、組織としてはまことに有益ではないか。警戒すべきは何をおいてもボランティアという考えやボランティアこそ社会正義と信じて疑わない考えである。第二条件は職能集団であってはいけないということだ。実際に過去の経験が医師や医療職だけではAMDAの活動がありえないことを示しているのだが、医師を含む医療職の全人口に対する割合を考えてみると、これだけではAMDAの活動のすそ野が全国に広がっていかないことは火をみるよりも明らかである。有給雇用された核になる人材と好きな時間に自分の得意な分野などで無償で手伝ってくださる善意の人々によってAMDAというボランティア団体は動いていく。

10月25日土曜日、AMDA神奈川支部が正式に発足した。この設立集会には非会員も含め20名が参加した。さらにその後、数名の方から問い合わせの電話があった。初代の代表に選んで頂いた私の個人的な考えとしては、地域の中によ

り密着した草の根型の活動をめざしていききたい。自治体や町内会レベルの防災訓練にも参加したいし、フィリピンのボランティアトレーニングセンターを利用しての県内の人材の育成や、ネパールAMDA病院の看護婦学校生徒の財政的支援などを個人と個人の顔の見えるような形でやっていきたい。これらの活動はオフィスや有給雇用の専従者がいなくてもできうる。すなわち運営のための資金集めに奔走する必要がないということである。おのおのが仕事や勉強を抱え



ている場合、奔走する時間的余裕すらないだろうから、このようなタイプの活動は生まれたばかりの組織としてはやむをえない選択の結果ともいえよう。事務局を持って有給雇用の職員が働いてすすめていくタイプの活動に参加したい方はAMDA日本支部のプロジェクトの中から選択すればよいのであり、これと思うプロジェクトがない場合はみずからが提案者となって新しいプロジェクトをおこし、リーダーとなって引っぱればよい。

財政面、人事面など組織の運営はやりがいもあるが、煩雑で気の遠くなるような作業であることもある。しばらくこのような活動に従事すると神奈川支部のような原点にたちかえっての活動は何ともいえない新鮮な気持ちにさせてくれる。柔軟でどのような状況にでも対応吸収できるようなそんな活動を展開していきたい。それがひいては神奈川県におけるボランティア活動のすそ野を広げる結果となれば喜びである。

組織があれば必ずといってよいほどおこるのが「分裂」である。ボランティア活動にすすんで参加する人は良い意味でも悪い意味でも自己主張を持っている人が多い傾向にある。だから妥協できないのだろうが、小異を捨てて大同をとらないと、いつまでたっても不幸な「分裂」の歴史を刻まなければならない。したがって日本を代表するような、国民的な支持に支えられるような団体は生まれてこない。確かにAMDAもAMDA国際医療情報センターも組織としては大きくなったが、運営面においてさまざまな問題を抱えていることは認めざるをえない。これらの問題解決には教科書もマニュアルもない。なぜなら私たちAMDAが先頭を歩いているからだ。初めての貴重な若い体験を糧として右往左往しながらも少しずつ前進しているのが今のAMDAの姿なのだ。10月某日の朝日新聞にともに仕事をしてきたあるボランティア団体の分裂記事が大きく載っていた。詳しい理由は伺いしれないが残念でない。

海外便り

No.2

AMDA ブラジル

AMDAブラジル

◇
坂口 律子

この欄は世界に広がるAMDAの支部・地域事務所等を順次紹介します。

日本と反対の国ブラジル。経済安定で増加した乗用車の排気ガスで近年とみに悪化した大気汚染のため、自家用車使用規制が施行されているにも拘らず、コンピューターの画面に吸い付く黒煙を横目で眺めながら奮闘しているブラジル支部スタッフを紹介しましょう。

ブラジル支部は、サンパウロ市オフィス街の一角にある秋山一誠内科クリニックに併設してあります。常勤スタッフは秋山一誠AMDAブラジル代表と私・坂口律子専任事務員、アシスタントのマリナ・タクウチさんの3人です。他のメンバーはそれぞれ忙しいお医者さん。デニス・ムラホブスキー医師は公衆衛生専門家、エドアルド・ビニャーエス医師はレスキュー隊員で、カッジオ・ポチーノ医師は精神病医、クラウジア・ムラホブスキー女史は公務員、そしてブラジル支部の会計を担当する秋山祐子女史は不動産鑑定士で、普段は各自専門分野で活躍しています。

日本が23個すっぽり入ってしまう広大な国ブラジルは、色々な国からの移民を

受け入れてきた多民族国家です。サンパウロ州は日本移民が多いことで知られていますが、それでもブラジル全国に占める割合から見ると1%にしか過ぎません。建国500年足らず、ポルトガルの植民地として始まったブラジルは、大きな内戦も紛争も起こることなく、2回の世界大戦にも国士が直接被害を被ることがありませんでした。豊かな自然資源に恵まれ、災害（台風、地震、火山噴火、サイクロン）とは無縁の国。70年代には工業近代化で未来の大国と期待され、80年代に入って国際債務を踏み倒して国際社会からソッポを向かれましたが、なんとか軍事政権から民主主義変革に成功、95年にはハイパーインフレを制圧させ、ようやく経済的にも安定しつつあります。

人々が団結して厳しい自然に立ち向かうという必要の無いこの国では、楽天主家のラテン気質と、他人が何をしようとするか我関せず、他人の意向を気にすることもない、全くの個人主義。サッカーなどをみても解るように、個人プレーがもてはやされ、選手は自分をア

ピールしてくれるチームにホイホイと移籍してしまうし、チームの戦略を考えて花形選手を引っ込める監督などはすぐに首になってしまいます。

個人的プライドが強いのは、日本人からみれば羨ましい程ですが、反対に物事の調整に取り組むというのが苦手なようです。ブラジル支部の会議でも各自が意見をガンガン出し合って、まとまらないこともしばしばです。全体の動きを考慮して自分の意見を抑えるということはまず考えられません。

秋山代表は、幼い頃に両親の仕事の都合でブラジルにやってきました。教育は全てブラジルで受け、医学留学生として日本と中国に滞在しました。正反対に見える日本人とブラジル人の長所と短所を身をもって体験してきた彼は、AMDAの提言の一つである「異文化の相互理解」の難しさを誰よりも感じています。

幸いにも恵まれた国であるブラジルは、緊急救援活動を実際に行う場合が少ないため、ブラジル支部は地域開発のプロジェクトに力を入れてきました。現在稼

働しているプロジェクトは母子保健開発です。昨年完了した新生児の死亡率と原因調査プロジェクトは学術的資料として通用するレポートが出来上がっています。また、ブラジルの公用語はポルトガル語なので、ポルトガル語を使用するアフリカの国々にブラジルから人材を送ることが出来ます。昨年はブラジル人看護婦をモザンビークプロジェクトに派遣、保健分野で従事しました。

今年7月には“第一回AMDAラテンアメリカ合同会議”をAMDA Internationalと共催。ポルトガル語、スペイン語、英語と日本語が飛び交う中、中南米の各支部のネットワークの強化をテーマに活発な意見交換を行いました。

安定した土地の利を生かして、AMDAブラジルは情報発信の業務活動にも重点を置いています。その内の一つはインターネットを使っての情報ネットワーク、“Open Web Site”の作成です。

ブラジル支部のサイト(<http://www.amdabrazil.or.g/>)には、“Open Panel”と“Open Directory”という項目があります。それは、人道援助、緊急援助活動に関する情報を提供し、通常時にはインターネットフォーラムとして、緊急時には迅速な状況把握と対応を可能にする情報掲示板として活用できる項目です。現在AMDAのホームページ(<http://www.amda.or.jp/>)からもリンクできるようになっています。関心のある方、諸情報をお持ちの方、どうぞご利用ください。

プロジェクトのコンセプト

家族計画・母子保健プロジェクト
チームリーダー 花田 恭

JICAが実施しているフィリピン家族計画・母子保健プロジェクトは、1992年4月1日に開始されたフェーズⅠが、本年3月末に終了し、4月1日からフェーズⅡが5年間のプロジェクトとして開始されました。

これまではマニラから北へ100キロの農村地帯のタラック州をフィールドとしていましたが、今度はタラック州を含む中部ルソン6州の第三行政区へ拡大されました。9月中旬に菅波茂代表を含む4名の計画打合せ調査団が来訪し、現地の視察をし、各州保健局長をはじめとする関係者を集めた企業会議を開催し、保健省インファンタード次官補と協議しました。この協議の中で、これまでの実施状況と今後の計画が承認されました。これまでの半年は事務所の設置やNGOの調査など準備作業をしてきましたが、これから本格的に協力事業を実施します。

このプロジェクトはAMDAと連携しています。菅波代表が国内委員会（委員長：中原俊隆京都大学教授）の委員としてプロジェクトに助言して下さいます。また、医療専門家がAMDAから派遣されてお

り、現在は岩永資隆医師が活躍されています。現地のNGOとも連携をすすめます。例えば、「健康の種」というNGOとは村落の住民組織による共同薬局の設立で協力しています。「学校法人レジーナ・カルメリ」の助産婦学校とは、村のボランティアのヘルス・ワーカーの育成で協力しています。

JICAのプロジェクトは、その目的、事業内容、スケジュール、双方の義務等を確認したR/D（Record of Discussion：議事録）を相手側と取り決めてから開始されます。

このプロジェクトはR/Dのなかで3つのコンセプトをうたいました。第一に、これまでのタラック州での成果を周辺の5州に波及させることです。これはいわば第三行政区内での「南々協力」を目指すものであり、タラック州で育成された人材が、他の州の研修に当たることなどを考えています。

第二に、リプロダクティブ・ヘルスを推進することです。94年のカイロ国際人口開発会議で合意されたこの概念は、性と生殖に関して、女性の個人個人の選択を尊重するものです。家族計画の方法の選択肢を増やし、利点や欠点についての情報が利

用できるようにし、質の良いサービスを提供することなどがその内容です。

第三に、他の援助機関、国際機関、NGOと連携することです。これにより、効率的で持続性のある国際協力となることが期待されます。

普通はコンセプトをR/Dに入れることはあまりありません。プロジェクトの中で議論しましたが、余計なものは書かない方がいいという意見もありました。しかし、他の国際協力機関では、コンセプト・ペーパーという構想書を発表してから案件を検討するのが普通です。さいわいJICAの本部でもコンセプトを書き入れることが認められました。

「論語」の子路編に「子曰く、必ずや名を正さんか。」とあり、「政治を任せられたら、何を於いてもスローガンを正しくしなければならぬ。」（宮崎市定、論語の新研究、岩波書店）と孔子先生はおっしゃっています。政治をプロジェクトに読み替えれば、「プロジェクトを実施するには、何を於いてもコンセプトを正しくしなければなりません」ということになると思います。

2 旧ユーゴスラビア救援活動 調整員◇木山 敬子

1994年より日本緊急救援NGOグループ（JEN）の活動として、クロアチア、セルビアの難民キャンプにおいて医療、生活改善指導、職業訓練、教育、物資支援などの多方面にわたる援助を実施。1996年よりボスニアにて病院再建、医療技術支援実施。

難民・被災民の人々の生活向上をめざして

国破れて山河あり、ボスニアに頻繁に行くようになってから、学生時代に漢文の授業で習ったこの言葉をしばしば思い出す。ボスニアの豊かな自然を前にするとき、その中に点在する家屋が破壊され尽くしているのを見ると、そういった感傷に浸ってしまう。

この二年余りの間、色々な光景を目にして、この紛争について自分なりに考えてきた。しかし、隣同士仲良く暮らしてきた人々が、銃を向け合って殺し合うという悲劇は、今でもどうして起こったのか分からない。この戦争が起きた

理由は、政治、経済あるいは民族と色々な説明を様々な人たちがしてくれたが、聞けば聞くほど混乱してくる。私に分かるのは目の前にいる難民、被災民（推定約200万人）の人々の暮らしの悲惨さだけだ。

この悲しい状況で多くの人々に出会い、色々な体験をした。そして、一人の人間として人間らしく生きていくことができないように誰かがしようとするなら、その迫害された人々の暮らしを少しでも人間らしいものに近づける手伝いをするのは、NGOである私たちに

こそできる小さいけれども大切な使命ではないかと思うようになった。

1994年 —フィールドへ—

1994年5月29日、私は旧ユーゴスラビアのクロアチア、ザグレブ国際空港に降り立った。当然バスなどなく、空港の建物に入れば薄暗く、思わず「旧社会主義で戦争をしている国」というレッテルを貼って見てしまっている自分に気が付く。ところが一步空港の建物を出ると、ベンツやアウディのタクシーが客待ちで並び、花が咲き乱れ、燦々と降り注ぐ太陽の下、緑の美しい公園が目飛び込んできた。爆弾は降り注いではないだろうと思っていたが、ここまで平和そのものなどは、... 狐につままれたような、拍子抜けしたような感じはホテルに着いても抜けなかった。ホテルも立派で、近くの公園では人々が憩い、犬を散歩させ、恋人たちは愛を語っていた。この国に本当に支援は必要なのだろうか？ 難民の人たちはどこにいるのだろうか？



セルビア人地区のキャンプにて 左から2番目が筆者



協力の名のもとに

旧ユーゴスラビアのプロ

ジェクトはAMDAではなくて、JEN（日本緊急救援NGOグループ）という名前で実施されている。様々なNGOには長所も短所もある。その長所を生かし合い、短所を補い合い、受益者の利益のために協力してプロジェクトを実施していこうという素晴らしい試みだ。AMDAの他には、立正佼成会、カンボジアの子供に学校を作る会等が積極的に係わっている。

こういった協力団体であるから、旧ユーゴスラビアプロジェクト現地責任者である私の上司はAMDAの人ではなく、立正佼成会の根本氏であった。このプロジェクトに対してはいろいろな不安があったが、そんな不安を感じている暇もないほど、根本氏と二人で、平均睡眠時間3時間、土曜日も日曜日もなく、プロジェクトの立ち上げのための仕事を行った。よくあれほど仕事があったと思うほど、よく働いた。根本氏が最初の帰国をするまでの三ヶ月間休みなしだった。この三ヶ月間で根本氏から実に多くのことを教わっ

た。いわゆる「この道10年」のキャリアを持つ彼から付きっきりでオン・ザ・ジョブ・トレーニングで指導を受けたのである。根本氏から学んだことは今後の私の財産となった。

1995年 — 逃避行 —

1995年4月の段階で、クロアチアの中にはいわゆるセルビア人に占領された地域というのがまだ4つあって、この4つの地域を順に国連保護地域東部、西部、北部、南部と呼んでいた。占領している方はしている方で、国際社会は認めていなかったものの4ヵ所合わせて一つの国として独立宣言をしていた。このうちの2ヵ所、東部と西部で私たちはプロジェクトを行っていた。

5月1日朝目覚めると、玄関にUNHCRの日本人事務官からのメモが置いてあった。クロアチア軍が攻撃を開始したので動かずに待機するようにとのことだった。慌

てて外に出てみると時折かすかに爆弾の落ちる音のようなものが聞こえてきた。まだプロジェクトを始めたばかりで衛星テレビのためのアンテナも取り付けておらず、短波ラジオもない。診療のため難民キャンプに残っているネパール人医師・バンダリの安否が気にかかる。UNHCRからの連絡で、とにかくザグレブへ退避してくれという。ドクターバンダリの安否を聞いたら、国連軍の基地の中のキャンプなので大丈夫だろうという。ザグレブに着いた時はドクターバンダリに申し訳ないと思いながらも本当にほっとしたことを覚えている。

翌朝、ザグレブで仕事を開始しようとしている矢先に、ドドン、ドドンと大きな音がした。大砲の音を聞いたことのない私にもすぐわかった。ザグレブへの砲撃が始まったのだ。しかし5分程で終わり、みんな一応無事で平常業務を続けた。

その翌日、また砲撃が始まった。これはもう本気だと私たちも



◀ 女性のミシン縫製コース

観念したが、その日も約5分で終わった。しかしこの効果は大きかった。ザグレブは最も近いセルビア人占領地域の町から20キロの位置にあり、攻撃をかけようと思えばいつでもかけられるというセルビア人側からの意志表示であったのだ。以来、いつ砲撃が起こるか不安に思って暮らした。この2度の砲撃によって、数人のザグレブ市民が亡くなり、戦争をしている国にいることを改めて思い知らされた。スタッフの安全に責任ある身としては、本当に不安でいやな時期だった。ドクターパンダリは3日間の砲撃を国連軍の基地の中の防空壕もない難民キャンプで難民の人々と一緒に耐え、難民

の人々と一緒に救出された。

この時期は少し政治的緊張が高まると旧前線地域の事務所に避難命令を出して、ずいぶん反発された。5月のことが心に重くのしかかっていた。戦闘が起ってしまったら逃げ方もわからない、だから起きそうになったら、起きる前に逃げるしかなかったのである。しかし地元のスタッフや受益者の難民・被災民の人たちと汗水流して働いている私のスタッフは、そういう状況で自分たちだけが避難することに対して罪悪感さえ感じていた。それでも私は頻繁に国連軍やUNHCRの担当者会い、治安に関する情報入手に務めた。

そして8月、緊急事態発生。不

幸中の幸いで私のスタッフは夏休みで一時帰国しており、連絡が必要なスタッフはザグレブ以外には2名だけだった。地元スタッフと一緒に避難するように伝えたが避難したスタッフはいなかった。自分たちは多分国境を越えられないだろうと言うのである。私たちはしかたなく2名のザグレブ以外のスタッフと途中で合流してスロベニアへと向かった。午後8時頃だった。この翌朝、クロアチア軍による北部、南部への攻撃が始まった。そして再び先祖代々何世紀も住んできた土地を追われる難民が大量発生した。5月のときも勿論発生したが、今回は17万人という難民の人々が避難していく本当の「逃避行」を目撃することになった。長い長い列が何日も何日も続いた。暑い盛りだったので幾人もの人が途中で亡くなったという。こうして私は一歩踏み込んだ形で戦争を体験してしまった。あ

おみやげ・喫茶・お食事

岡山駅名店街
ピーチプラザ

岡山駅2F 新幹線改札口前

ソーシャルサービス ▶
(生活改善) プロジェクト
(空手着も救援物資として
日本から送られている)

の悲しい隊列の様子はきっと一生
忘れることはないだろう。

1996年 ボスニアにて

1996年夏、私の仕事の半分以上はボスニアでのプロジェクトとなった。1994年10月根本氏とニーズ調査に行き、ボスニアではスタッフの治安が守れないからと、プロジェクトを行うことを断念した頃のことを考えると隔世の感がある。賛否両論があるにせよ、デイトンでの和平合意の賜物だと思う。

戦闘はおさまった旧ユーゴスラビアではあるが、ここに住む人たちはまだ戦争の傷痕と戦っている。サラエボにいる4歳のティアナは、4歳になるまでオレンジを知らなかったし、チョコレートも知らなかった。このこと自体は悲劇と呼べる程のことではない。し



かし薪にするために壁紙を剥がし、床板を剥がし、椅子、机を燃やし、本を燃やし、必要最低限の衣類を残して他の全ての衣類を燃やし、靴を燃やし、燃やせるもの全てを燃やし尽くした末にチョコレート知らないティアナがいるのだ。

初めてティアナに出会った時の写真を見て、友達が悲しい目をしていると言った。半年程経った頃からやっと明るく笑うようになってきたのだが、旧ユーゴスラビアの辛いところは、みんながまた戦争があるのではないかと感じるところだ。悲しい目をした子供や大人を作り出す戦争が早く完全に終結することを心から願ってや

まない。

AMDAとの出会いから3年、本当に飛ぶように日々が過ぎ去った。その間はドタバタ劇というか、青春ドラマというか、小説より奇なる日々だった。この3年間に私が出会った人たちに教えてもらったこと、そして私が経験してきたこと、全てがいつも何らかの形で私を助けてくれた。これからも私を育ててくれたスタッフの人たちと一緒に頑張っていきたいと思っている。

(1996年9月記)

最新医療及び地域福祉に貢献する

総合商社

大熊器械株式会社

岡山市大内田828-4
TEL 086-293-2171
FAX 086-292-0830

【関連会社】
(株)テクノメディック大熊
(在宅医療関連)

岡山市大内田756-3
TEL 086-293-7710
FAX 086-293-7705

NGO カレッジ

ダイジェスト

JANAN 構想

AMDA 代表

菅波 茂

1997年10月3日。JANAN (ジャンナン) が広島県の国際人道援助フォーラムで産声をあげました。「日本 NGO / NPO 協会 (JAPAN ASSOCIATION OF NGOS AND NPOs: JANAN) の略称です。「国際貢献と地域おこし」が趣旨です。国際貢献はわかるがなぜ地域おこしなのか。なぜなら従来の NGO はほとんどが海外における国際協力と国際貢献を理念に掲げ活動をしてきたからです。ただその相手は発展途上国のローカル NGO であるという事実を忘れてはいけません。彼等の目的は「地域おこし」です。じゃあなぜ日本の NGO が日本国内の地域おこしに関心を持たなかったのでしょうか。これは非常に大切な視点です。答えは日本の NGO の95%以上が東京、大阪、京都や名古屋に本部を置いているからです。即ち、日本国内の地域おこしとは縁が無かったからです。

端的な例で説明します。ただ「市民運動は意識改善運動であり、住民運動は生活改善運動である。」という前提をいれます。1991年のロヒンギャ難民救援

活動に4百万円の寄付が全国から岡山の片田舎にある無名に近いアジア医師連絡協議会 (AMDA) の本部に寄せられました。驚いたことに寄付者の6割が東京都民からでした。ロヒンギャ難民救援活動と東京都民の生活は直接関係はありません。したがって日本の人口の1割の東京都民が寄付者の6割であることは東京都民は日本人の平均の6倍の市民意識を持っているといえます。これが日本の既存の NGO の9割が東京に本部をもつ本当の理由だと思っています。このことは市民国家である東京を除けば日本は住民国家だと考えたほうが無難です。地域おこしとは生活改善運動です。したがって東京に本部を置く NGO が理解できずに関心を持たなかったのも当然です。ただし、発展途上国の地元 NGO は生活改善運動を実践している住民です。日本の NGO の意識は人間として放っとけないので支援にはいるという市民意識です。住民意識と市民意識の決定的な差異を理解しておくほうが双方に誤解と不信が生まれません。それは住民意識の行動原理は「相互扶助」であるという決定的な社会規範です。一番まちがいないのは同じ社

今年7月に広島県と共催で行った NGO カレッジの講義をダイジェストに掲載します。

会規範を持つ団体同士が協力しあうことです。それは日本では地方に本部を置き「地域おこし」に関わっている NGO / NPO です。

この NGO / NPO のパートナーである住民の特徴は生活改善運動を組織的に持続的に展開できる能力と伝統を持っています。そして住民にとってのエリートは地方自治体です。したがって住民国家である日本の国際貢献と地域おこしには地方自治体との連携が不可欠になります。

現在、明確に国際貢献の意思を持っている地方自治体は4県です。広島県、兵庫県、沖縄県そして岡山県です。イニシアチブをとれば H2O2 (過酸化水素) となります。この過酸化水素連携は住民国家である日本の国際貢献推進の強力な起爆力になる可能性があります。点火するのは AMDA の役割と心得ています。これらの地方自治体と連携するのが地域おこしに関心と実績をもっている地方に本部がある NGO や NPO という図式になります。これが JANAN です。

JANAN が単なる情報ネットワークでなく、アクションネットワークとして日本の NGO / NPO 活動の発展に貢献していけることを期待

NGO、NPO 全国組織が発足

AMDANAが参加

AMDANA(非政府組織)、NPO(民間非営利組織)などの市民団体が連携して国際協力・貢献活動を進める全国組織「日本NGO/NPO協議会」(略称JANAN)が三日、発足した。倉敷市内で四日開幕する第四回「おかやま国際貢献NGOサミット」に参加し、海外NGOとの連携を深める。

広島市内のホテルで開かれた発足式には、アジア医師連絡協議会(AMDA、本部・岡山市)など岡山、鹿児島県、東京都など全国十六都道府県の二十二市民団体と広島県が参加。JANAN代表世話人となった菅波代表が「各市民団体が取り組んでいる国際交流事業などのノウハウを交換しあい、活動の活性化を図ろう」とあいさつした。

同協議会は来年二月、広島国際協力センター(東広島市)で参加各団体の活動事例発表大会を開催。今後の事業として、インターネットなど活用した情報交換システムの構築▽各団体が実施しているプロジェクトへの相互参加▽などを検討している。

しています。

JANANの今後の役割について説明します。

1、国際貢献の推進

- 1) 世界の共通価値観である「家族の今日の生活と明日の希望」を共有する。
- 2) 世界の地元NGOとの人的交流による相互理解と相互支援を推進する
- 3) 世界の地元NGOと連携し発展途上国における生活改善運動を推進する。
- 4) JICA+地方自治体+NGO/NPOの三者連携を推進する。
- 5) 国連、国際機関そして日本政府との連携を推進する。

2、地域おこしの推進

- 1) 国内NGO/NPO間の人的交流による相互理解と相互支援を推進する。
- 2) 国内の生活改善運動を推進する。
- 3) 地方自治体+NGO/NPOの二者連携を推進する。
- 4) 国内の「ボランをティア」活動との連携を推進する。
- 5) 民間企業との連携を推進する。

3) 国際貢献と地域おこしの相乗効果推進

上記の役割を推進するために下記の3点が必要となります。

- 1) 国内外における「生活改善プロジェクト」の企画運営
- 2) 情報データベースの構築運営
- 3) JANAN推進のための教育の企画運営

この3点を企画運営するための事務局機能は当面はAMDAとNGOカレッジ講座同門会が担当することになります。

JANANが国際貢献を推進するために下記の提案があります。

- 1) JANAN参加NGO/NPOの海外パートナーである地元NGOの複合ネットワークを結成し、毎年定期的な会議を開催し、「生活改善プロジェクト」と情報データベースを推進する。
- 2) 外務省およびJICA等と定期的協議会を開催し、協力関係とプロジェクト実施を推進する。
- 3) 国連機関および国際機関と定期的協議会を開催し、協力関係とプロジェクト実施を推進する。
- 4) 地方自治体および民間企業と定期的協議会を開催し、協力

関係とプロジェクト実施を推進する。

- 5) 海外における「生活改善プロジェクト」のフォーラムを定期的に開催し、質の向上をはかる。

JANANが地域おこしを推進するために下記の提案があります。

- 1) JANANの定期的な会議開催し、協力関係と国内の生活改善プロジェクトを推進する。
- 2) JANANに必要なに応じて人材を得れば安易に委員会をつくり積極的に試行錯誤をする。
- 3) 地方自治体および民間企業と定期的協議会を開催し、協力関係とプロジェクト実施を推進する。
- 4) 国内における「生活改善プロジェクト」のフォーラムを定期的に開催し、質の向上をはかる。
- 5) NGOカレッジ講座にJANAN活動に関連した講座を積極的に企画運営する。

JANANへの参加団体を募集しています

日本 NGO/NPO 協議会加盟団体リスト

(あいうえお順: 1997年11月1日現在)

*詳しくは、JANAN事務局 27. 広島県総務部
国際交流課までお問い合わせ下さい

1. 財団法人 アジア・アフリカ国際奉仕財団
所在地: 奈良県高市郡高取町 連絡先: 事務局 坪井 保
TEL: 0744-52-3172 FAX: 0744-52-3835
2. アジアインフォメーションセンター
所在地: 福島県郡山市 連絡先: 代表 遠藤 道彦
TEL: 0249-25-6770 FAX: 0249-25-6770
3. AEA (アジアの教育支援の会)
所在地: 岡山県岡山市 連絡先: 代表 森 暢子
TEL: 086-251-4558 FAX: 086-253-3470
4. アジア仏教徒協会
所在地: 佐賀県伊万里市 連絡先: 理事 小島 宗光
TEL: 0955-28-5111 FAX: 0955-28-5050
5. AMDA
所在地: 岡山県岡山市 連絡先: 代表 菅波 茂
TEL: 086-284-7730 FAX: 086-284-8959
発起人・代表世話人
6. 財団法人 オイスカ
所在地: 東京都杉並区 連絡先: 事務局長 新屋敷 道保
TEL: 03-3322-5161 FAX: 03-3324-7111
7. KAGOSHIMA 熱闘会議
所在地: 鹿児島県始良郡 連絡先: 会長 大坪 徹
TEL: 0995-58-2206 FAX: 0995-58-2206
8. 上総掘りを伝える会
所在地: 千葉県袖ヶ浦市 連絡先: 大岩 澄江
TEL: 0438-75-2440 FAX: 0438-25-4818
9. 角田市農協・アジアの農民と手をつなぐ会
所在地: 宮城県角田市 連絡先: 代表 面川 義明
TEL: 0224-68-2694 FAX: 0224-68-2694
10. グローバル地域研究所
所在地: 東京都 連絡先: 主宰 小松 光一
TEL: 030-689-9960 FAX: 03-3751-3906
発起人・世話人
11. KIO (加茂川町国際推進協議会)
所在地: 岡山県加茂川町 連絡先: 総裁 片山 舜平
TEL: 0867-34-1112 FAX: 0867-34-1556
12. 国際医療協力山口の会
所在地: 山口県下松市 連絡先: 代表 岩本 功
TEL: 0833-41-0395 FAX: 0833-43-7460
発起人・世話人
13. 国際貢献トピア岡山構想を推進する会 (OTIC)
所在地: 岡山県岡山市 連絡先: 代表 谷口 澄夫
TEL/FAX: 086-234-5128
14. 国際ボランティアの会
所在地: 埼玉県大宮市 連絡先: 代表 富永 幸子
TEL: 048-622-8612 FAX: 048-622-8612
15. 国際協力の会 MIS
所在地: 佐賀県伊万里市 連絡先: 理事長 古賀 等
TEL: 0955-28-5111 FAX: 0955-28-5050
16. あわじ島国際理解教育センター
所在地: 兵庫県洲本市 連絡先: 事務局長 磯崎 泰博
TEL: 0799-24-0288 FAX: 0799-24-3878
発起人・世話人
17. ジャスコ (株) 近畿カンパニー
所在地: 大阪市福島区 連絡先: 環境リーダー 広田 耕一
TEL: 06-457-6209 FAX: 06-457-6209
18. ジャスコ (株) 西部カンパニー
所在地: 姫路市北条 連絡先: 環境リーダー 山野 芳弘
TEL: 0729-24-2433 FAX: 0729-88-5895
19. 瀬戸内改革振興会
所在地: 岡山県岡山市 連絡先: 理事長 武鑑 久治
TEL: 086-482-3343 FAX: 086-482-3343
発起人・世話人
20. 中国・地域づくり交流会
所在地: 広島県広島市 連絡先: 事務局長 浅野 ジュン
TEL: 082-221-8505 FAX: 082-221-6009
発起人・世話人
21. 東海アジア太平洋地域開発研究所
所在地: 愛知県 連絡先: 代表 富田 輝司
TEL: 0565-43-0125 FAX: 0565-46-5220
発起人・世話人
22. 十勝インタナショナル協会
所在地: 北海道帯広市 連絡先: 河合 正廣
TEL: 0155-24-4111 FAX: 0155-23-0154
23. TICO (徳島で国際協力を考える会)
所在地: 徳島県山川郡 連絡先: 代表 白石 吉彦
TEL/FAX: 0883-42-2221
24. 南方圏交流センター
所在地: 鹿児島県鹿屋市 連絡先: 代表 加藤 憲一
TEL: 0994-44-4407 FAX: 0994-44-4418
発起人・世話人
25. 人形劇団「Z」
所在地: 千葉県袖ヶ浦市 連絡先: 団長 白川 幸子
TEL: 0438-64-1403 FAX: 0438-64-1403
26. 広島アジア友好学院
所在地: 広島県広島市 連絡先: 理事長 山田 忠文
TEL: 082-223-4688 FAX: 082-223-4688
発起人・世話人
27. 広島県総務部国際交流課
所在地: 広島県広島市 連絡先: 課長 荒井 仁志
TEL: 082-228-5877 FAX: 082-228-1614
発起人・世話人
28. ICA 文化事業協会
所在地: 東京都 世田谷区 連絡先: 理事長 佐藤 静代
TEL: 03-3416-3947 FAX: 03-3416-0499
発起人・世話人
29. ボランティアネットワークあすか
所在地: 岡山県楳津 連絡先: 事務局長 小野田まゆみ
TEL/FAX: 086-284-2906
30. 学びやの里・木魂館
所在地: 熊本県阿蘇郡小国町 連絡先: 館長 江藤 訓重
TEL: 0967-46-5560 FAX: 0967-46-5561
31. 連華院国際協力会
所在地: 熊本県玉名市 連絡先: 事務局長 久家 誠司
TEL: 0968-74-1675 FAX: 0968-74-1675
発起人・世話人

原稿募集

AMDAの月刊活動報告誌「国際医療協力」を11月から大幅に変え、「AMDA Journal」として創刊いたしました。そして従来の専門家の活動報告だけでなく、学校・地域・行政・企業・団体などによる多方面からのボランティア活動を紹介する「国際協力ひろば」のページを設けました。様々な活動を知り、意見を交換し合うなかで、お互いのボランティア活動への取り組みがより充実したものになればと考えています。

学校のボランティア教育活動、地域のおもしろいボランティア活動、あるいは企業や自治体の国際協力活動など「国際協力ひろば」のページにご紹介下さい。

多くの投稿をお待ちしております。

宛先： 岡山市榑津 310-1
AMDA 広報部 田代・大谷
電子メール：tashiro@amda.or.jp

※創刊号にも掲載しました投稿規定を再度掲載いたしますので参考になさって下さい。

●広告のお申し込みは

(株) JR西日本コミュニケーションズ 086-223-6964 岩井
(株) 新通エス・ピー・センター 06-533-6191 青山

【AMDA ジャーナル 投稿規定 (1997.10 現在)】

AMDA ジャーナル 編集責任者

AMDA 日本支部 副代表 山本 秀樹

本号からこれまでの国際医療協力からAMDAジャーナルへと衣替えをしました。投稿の目安をつくりましたのでご利用ください。

1. 本誌の目的 本誌は、AMDAの機関誌としてAMDAに関連した国際協力、国際学術交流・研究、地域ボランティア活動の推進のために有益な情報を提供することを目的といたします。
2. 投稿資格 原則として、著者はAMDA会員および編集委員会が認めたものとするが、会員以外の投稿も歓迎します。
3. 投稿規定 原稿は和文または英文とし、別記する執筆要項で指定されたスタイルに従う。他の刊行物と全く同じ物を投稿する2重投稿はしないようにしていただきたい。また原稿に関する写真も説明を付けてお送りください。
4. 原稿締切日 原稿を下記の執筆要項以外でお送り下さる場合は、こちらで打ち直しますので毎月20日まで。執筆要項通りにお送り下さる場合は毎月25日までとします。
5. 校正 校正は、原則として編集者が行います。
6. 著作権 著作権はAMDAに所属し、執筆内容はAMDAのWWW(World Wide Web)にて公表することがあります。掲載記事内容の責任は著者が負うものとします。
7. 査読 出版に先立ち投稿原稿の採否は編集委員会が決定し、内容に関して著者に対して訂正を要請する事があります。(事実と相違する場合など必要最低限にします)

【AMDA ジャーナル執筆要項】

原稿は、原則として、電子ファイルの形でお送りいただきます。原稿用紙やワープロでプリントアウトした物を送っていただいても結構ですが、本誌は、MacintoshによるDTPにより組版を行っている関係上、以下の形式でお送りくださると助かります。

[e-mail の場合]

電子メールにてtashiro@amda.or.jp(広報局田代)までテキストの形で送っていただいても結構です。電子メールが使えない場合はフロッピーディスクでもかまいません。

[Macintosh の場合]

Macintosh フォーマットのコピーディスク、あるいは、3.5インチMO(128MB)を使用してください。本文はマイクロソフトワードVer.6.0、標準テキスト形式のいずれかで保存し、プリントアウトしたものも添付してください。

[DOS 系の場合/UNIX 系の場合]

基本的には上述のMacintoshに準じますが720KBまたは1.4MB(9セクタ)にフォーマットされたフロッピーディスクを使用してください。いずれの場合でも、プリントアウトした物を添付してください。

また、写真はリバーサルフィルム・ネガプリントどちらでも結構です。編集作業終了後、返却します。返却不要であればその旨お書きください。

疑問点があれば、AMDAジャーナル編集部(田代、大谷)または山本秀樹(hideki@amda.or.jp)までお尋ねください。

あした
未来を考えるシステムの包装商社

**パステム
オカヤマ**

学校

スタディーツアー（ミャンマー）
価値観くつがえす体験

<1997年8月27日～9月9日>

● 岡山県立大学看護学科三年

小寺

友子

ミャンマーでの短すぎた2週間の日々は、私の生活習慣はおろか、価値観までもくつがえす体験となり、日本での物に頼りきっている生活のもろさを感じた。

ミャンマーはちょうど雨期だった。首都ヤンゴンでは大雨の毎日。私たちはヤンゴンでの観光を終え、中部のドライゾーンに位置するメティエラでAMDAの活動を見学した。

日本の病院では充分すぎるほどに清潔が保たれ、患者、家族ともに今日話題となっているインフォームド・コンセントを受け、手軽に治療が受けられるようになっているが、私が見学した町や村の病院では、十分な医療機器がなく、ましてや電気の供給、医療スタッフの数も足りないのだという。一見ただで、術後感染を疑ってしまうほどの設備と不衛生であった。しかし、経済的、病院までの距離の問題から、ほとんどの人々が医師に診せることはないのだという。ミッドワイフといわれる18ヶ月の教育を受けた1人の医療者が、8～12の村を受け持ち、村人の健康に

対処しているが、とうてい手が回らないのだ。

巡回診療について村を訪れると、ちょっとした風邪でたくさんの方が診察に訪れる。逆に無料で行われている妊婦に対する破傷風の予

防注射を恐がり逃げ、受けることなく子どもを産もうとしている妊婦や、火傷をしても冷やすことをせず、自分たちの信じる薬をつけ、変形していく手足を何年も放置している者もいる。こういった彼らの健康に対する関心をみると、一時的な救援も必要だが、「彼ら自身ができること」が必要なのだと思った。火傷を負ったらまずきれいな水で冷やすといった知識が必要だと感じた。

健康と生活は切り離せないものだと考える。ミャンマーの子どもたちと遊び、現地の人々の生活にふれてみると、不衛生と思われる家畜の糞を隣にしての生活、排尿排便習慣、ため水、汚れた手での食事、日本人の私にはきりがいりほど危険と思われることは挙げられる。政状、民族性からこの国で強制して物を教えることは難しい。できるとするなら、高精度な機械やお金ではなく、知ってもらふことだ。彼らの中に根付く何かを、私たちは手助けしていかなければならないと思う。そのためには彼らの生活の中でごく当たり前になっていることを彼らと生活することで知らなければならない。そしていつの日か彼ら自身が問題意識を持って、これまでの意識や価値観を変えていくきっかけになることが求められるのではないだろうか。

軍事国家という一風変わった雰囲気を持つ社会で、私はたくさんの人とふれあうことができた。一緒に鶴をおり、ビルマ語を教えた子どもたちの純粋さや優しさを感じながら、こうして元気な笑顔を見せてくれる彼らに、もっと生活しやすい時代はこないものだろうかと思った。私は彼らから心から温まる安らぎをもらった。



コミュニティ・ラーニングセンタープロジェクト

ラカイン州で女性に識字教育、母子保健指導、ミシン設置等生活改善。UNHCRと共同で1997年7月より活動を開始した。

スタディーツアー (バングラデシュ) DSKを中心に

<1997年8月20日～28日>

DSKはCommunity Based Organizationとして生活向上を目的とした幅広い開発活動を展開している。

学校法人中川学園
広島福祉専門学校
教員 松井 圭三

今日の世界を眺めてみると、日本のように平和でまた経済的に豊かな国は少ないというのが事実だろう。

世界の中で、特にアジアやアフリカはまだ貧困と飢餓に悩まされていることは小学生でも知っている。あたりまえの事実であるが、社会福祉を志した私にとってこのスタディーツアーは、大いにこのあたりまえの事を学習できる場と思ひ、思い切って飛び込んだのが正直な気持ちである。

さて、バングラデシュに飛行機が着陸体制をとって低飛行状態に

なった時、ふと窓の光景を見た。なんと、上空から見るバングラデシュは、緑色の大地と茶色の湖で、国土がほとんど水浸しの状態であり、なんとも言えぬ恐怖感が頭をかすめたのを覚えている。案の定、ダッカ空港を出ると貧民の人でいっぱいであり、物を乞う人や物を売る人々の塊と言ってもよからう。そして、道路は10年くらい前の日本車やオート三輪、自転車の客車等であふれかえっており、その数の多さと、道路上の車のクラクションの音や人の声で騒然としていたことには本当に驚いた。これが、私が初めてバングラデシュに到着した最初の印象である。

次に、こうしてバングラデシュのスタディーツアーが始まったわけだが、色々なNGO団体の活動を見学させていただいた。その中でDSKの印象を簡単に述べてみたい。

DSKは、バングラデシュ国内で活躍しているNGOであるが、特に水の問題を私自身が考えるよい機会となった。スラム地区では、汚水を使用することにより感染症、下痢で亡くなる子供が後をたたない。それゆえ、水の改善が彼たちの生命と健康を守ると言っても過言ではない。まずDSKは、スラム地区できれいな地下水を汲み上げ

るためのポンプを建設していた。住民はうれしそうにそのポンプを使用していたのが脳裏に焼きついている。また、DSKのスラム地区の住民のプライマリー・ケアを担う援助も見学させていただいた。もちろん他のNGOにおいても、この問題には強力に援助しているが、医者数はこの国では、絶対数が足りないのが現状らしい。しかし、心ある医師は地位やお金を求めず、ひたすらに貧しい人々のために援助している姿は輝いていた。

私はこれらの援助を見学して、端的に言えば、自分に出来る範囲で何らかの国際貢献をしたいと心に誓ったのである。たとえば、NGOに寄付することも立派な貢献であるし、時間があれば現地に赴いて、私の専門である社会福祉の援助をすることも1つの方法かなと思った。要は、肩の力を入れなくて自然な形でNGOの活動ができるのだなあと改めて痛感した次第である。

このスタディーツアーを最後にするのはではなくスタートとして位置づけ、自分のライフワークの1つとしてNGO活動をこれからも、何らかの形でやっていきたいというのがこの旅行をしての私の感想である。

団体

県民のボランティア活動への参加意識を支えるために
ボランティアアドバイザーって何のこと？

岡山県社会福祉協議会

現在、岡山県社会福祉協議会、岡山県ボランティアセンターでは、市町村社会福祉協議会と協働し、ボランティアアドバイザー養成講座「ボランティア・カレッジ」を県内4ブロックに分け、平成7年度より実施しています。

「ボランティア活動に参加したいけど、なかなかきっかけがない」「活動を続けるなかで行き詰まりを感じてきた」そんなときに気軽に相談できる人が身近にいたら・・・。

そういった視点で考えられたボランティアアドバイザーとは、どのような役割なのかをお知らせしたいと思います。(参考：全社協「ボランティアアドバイザーの役割と養成の進め方」)

平成6年の世論調査(平成6年6月/NHK「ボランティア社会についての世論調査」)

国民の約6割が機会があればボランティアに参加したい

↓しかし

実際に活動している市民は各種調査からも5~10%しかない

—参加希望と実際の参加に

↓ 大きなギャップがある

環境・体制づくりやきっかけの不足、友人・仲間の必要性

↓国民のニーズに対応するには・・・

ボランティアアドバイザーの養成

1. アドバイザーの性格、機能・役割

活動の意欲を持つ人に身近なところで相談に応じ、情報提供、ボランティアセンターとのパイプ役を果たす

(1) アドバイザーの正確、役割・機能

アドバイザーの最も特徴的な性格は、「情報提供や相談を必要とする人と同じ仲間」であることです。

そして、生活体験、活動を共有する仲間としての共感・視点にたって、これから活動をしたい人や既に活動をしている人に対する日常的な相談・助言を行い、その人の自己決定を促すよう側面から支援します。

これから活動をしたい人に対しては、その人の活動ニーズや動機をつかみ、その人にあった活動や実際に活動に入るにはどうしたらよいか等の相談を受け、情報提供や助言を行います。

また、実際に活動につながるよう、自らのネットワークを活かしてコーディネーターや他のグループリーダー、アドバイザーなどのキーパーソンに紹介したり、また、場合によっては活動に誘い、きっかけづくり、導入の支援を行



ボランティア・アドバイザーとは
 ボランティア活動の基礎的な知識・技術・資質を身につけていただく機会を提供するとともに、ボランティア活動をこれから始めたいという方への相談・支援やボランティア活動のこころ構え・活動のメニュー等のポイントについて基本的な説明(アドバイス)をしてくれる方のことです。

います。

既に活動している人に対しては、活動上生じる様々な精神面での悩み・つまづき（マンネリ感、家族の理解、仕事との両立、活動上の様々な負担感等々）に関する相談・助言を行います。

また、利用者と職員との関係上生じたトラブルで組織上の対応を要するものなどは、活動先のコーディネーター等の調整を求めようアドバイスします。

(2) ボランティアコーディネーターとの違いと協働

コーディネーターとアドバイザーとの本質の違いは、アドバイザーはあくまでも「仲間」であることに對して、コーディネーターはボランティアセンター、施設、企業等の組織・機関における「職」としての立場にあることです。

コーディネーターも、当然活動したい人に対する情報提供や相談・助言を行います。職が行う相談・助言と仲間が行う相談・助言とは、必要としている人にとっての気軽さ、利用のしやすさ、あるいは意味や受けとめ方、内容等におのずから違いがあります。

コーディネーターは、アドバイザーとの協働により、コーディネーター個人ではカバーできない幅広い活動領域についての情報や知識を得ることができ、また、年代等の違いによる生活感覚や意識のズレを埋めることが可能になると考えられます。

(3) ボランティアグループリーダーとの共通点と相違点、協働

ボランティアグループリーダーは、グループ活動のまとめ、活性化、新規加入者への助言、そ

の活動分野の技術的指導等の他、当然、アドバイザーの役割として想定しているような活動中の様々な問題に直面したときの相談・助言を行っています。

しかし、他分野の活動に対する関心、知識、情報、ボランティアの役割等についての幅広い知識、様々な人的ネットワークの有無は、リーダーによって大きな差があります。

特に、初めて活動をする人たち、新しい活動の場・グループに入ってくる人たちは、ちょっとした緊張や不安を抱えており、何気ないことが大きな精神的つまづきとなったり、また、長く活動をしている人であっても当初の目的の喪失、グループ内での人間関係の変化、自分自身の興味の変化、個

人的な生活の事情の変化等によって、心配事への助言、新たな刺激、活動内容（場所）の変更等が必要となります。

そうした人々への共感や必要な配慮ができ、また、自らの活動だけでなく他分野についての知識や人的ネットワークを持ち、そのグループの人としてだけではない視野にたって気軽に相談できる人が仲間のなかにいることが必要となっています。

2. アドバイザーの研修

今年度は、全5回の養成講座を行っており、あと最終講座（12月13～14日）を残すのみとなりましたが、約200名の参加者が受講しています。

平成9年度ボランティアアドバイザー養成講座

『ボランティア・カレッジ』（全5回）

*対象者—学校・企業・労組・福祉施設・福祉団体・病院・行政等のボランティア活動推進の担当者及びボランティア等

各地域における定年退職された方やシニア層のボランティア等

*講座内容（概要）

第1回講座 『ボランティアってなんだろう？』

第2回講座 『地域ニーズとボランティア』

第3回講座 『やってみよう、ボランティア！』

第4回講座 『受けとめてみよう、ボランティア』

第5回講座 『ボランティア活動の広がり求めて』（県内合同開催）

午前 講演『ボランティア活動の広がり深まりを求めて』

午後 実践発表（1）『ボランティアとの連携について』

実践発表（2）『ボランティアセンターとの連携について』

グループ討議（1）『ボランティアコーディネーターとボランティアアドバイザーについて』

午前 グループ討議（2）『ボランティアセンター（社会資源）の利用について考える』

午後 全体会 『これまでの学習のまとめと今後の活動に向けて』

まとめ 『全体会のまとめと今後の活動に向けて』

■問い合わせ先 岡山県社会福祉協議会（岡山県ボランティアセンター）
〒700 岡山市石関町2-1 県総合福祉会館6F
TEL 086-226-3511 FAX 086-227-3566

日本一のハートの町をめざして

加茂川町の国際交流

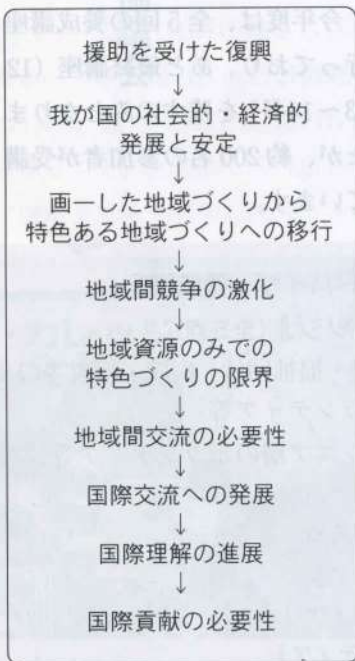


新たな絆を求めて

3、加茂川町における国際貢献

《国際貢献までの一般的経緯》

そもそも国際貢献のルーツは地域づくりを源とするものであります。地域づくりから国際貢献までの経過をたどると、次のようになります。



《加茂川町における国際理解施策の基盤》

加茂川町においては、他の地域と同様特色ある地域づくりが当面の最も重要な施策として推進して来ました。行政においても、機構改革等を行い公聴広報活動などの充実につとめ、行政も内外の情報の接点として交流の基盤づくりを行いました。また、「日本一の町づくり」をテーマに掲げ、10年先、20年先、あるいは50年・100年先を目指した地域づくりを進め、こ

れらを含め、「ふるさとに出会えるまち・加茂川」を将来像に加茂川第2次総合振興計画を策定したところであります。

こうした中、平成4年には県下市町村に先駆け、ニュージーランド出身の国際交流員を採用。以後、アメリカ合衆国、アイルランドからの国際交流員を順次招聘し草の根交流の推進に努めるとともに、諸外国を訪問しその実態や国際交流・貢献の方向性を研修しました。

また、加茂川町における国際化推進施策をきちんと位置付けるため、平成6年4月から「加茂川町国際化の推進に関する条例（平成6年条例第7号）」を施行するとともに、町民による国際化推進組織KIO(kamogawa International Organization)を組織し、交流・貢献の研修を進めています。

これらを通じ、豊かな国の反省点、貧しいながら一生懸命生きるひたむきな生活。外から見た我が国の姿。これらの体験は、マスメディアのみでは体験しがたい貴重な現状を知ることができました。いずれも、行政においては中・長期的に明確な位置付けと交流の成熟というステップの中で基盤づくりを行ってきたところであります。これらの国々を含め開発途上の国と言われる国々は、医療や教育の不足のみならず、水道もなければその技術もなく、建築技術も保健衛生も環境衛生も日常生活全般にわたる質的向上が望まれる

実態がわかりました。

荒廃の中からいろいろな援助を受け、飽食と言われる生活をも経験した我々がその恩恵に対し、それらの国々に少しでもお返しをするのは人道上至極当然のことでありましょう。

貢献は思いやりの心を育てる、人間本来の柔らかな分野であります。恵み与えるというのではなく、共存を図り相互の発展に尽くすという基本理念のもとに展開されるもので、貢献から新たな交流への発展にもつながり、ひいては地域活性化の原点につながることもなるものなのです。

《加茂川町における国際貢献の考え方》

このように今、国際貢献は地域の時代といわれています。また、交流から貢献へと流れは着実に進んでいます。自治体がなぜ国際貢献を…との論議はほとんどされていないところでありますが、これからの国際貢献は、官民一体の活動が必要なことは誰もが感じていることでもあります。このことは、今までの支援活動は医療は医療のみ、あるいは物資の援助などが個別に各々の分野で行われ、援助効果が必ずしも期待された通りでなく、片手落ちになりがちであったことへの反省であり、これからの活動に対する提言でもあります。

すなわち、これからの国際貢献は総合的な技術や助言を必要とし、例えば自然災害による緊急時



には医療はもとより、水道、保健衛生、環境衛生、土木、統計等々のノウハウを必要とし、それらが一体となってこそ、NGOの役割が100%発揮できるわけです。そう考えると地方自治体が国際貢献に関与することは必然的であり、むしろ今まで閉鎖的であった事のほうが不思議なくらいであります。また、行政機能の総合性からして、行政のノウハウのほうが多いのではないかとも思われます。こ

のように考えれば、自治体が国際貢献のコンサルタントとしてまた協力者としてNGOと連携することは難しいことではありません。

当町においては、バングラデシュやソマリア等の視察において、国際貢献の一端を経験して来ましたが、これを一過性のものでせず、継続することによって有形無形を問わず必ず行政に生きて行くものと考えられます。また、こうした活動は、今後の福祉行政や町おこしに少なからず好影響をもたらすものと思いません。「今まで例がないから…しなさい」ではなく、例がないから一歩を踏み出すことの勇気が必要か

と考えます。

《まとめ》

以上をまとめると

- (1) かつて受けた援助に対する貢献は、当然の行為である。
- (2) 国際貢献は総合的な体制で行うことが最も効果的である。
- (3) 行政のノウハウの総合性を生かしかかわって行くことは、国際貢献の総合効果の発揮に最も必要である。
- (4) 国際貢献は、豊かなヒューマニズムあふれる地域特性を生かした特色ある地域づくりにつながる。
- (5) 新しい時代の、地域福祉行政の指針ともなる。
- (6) 交流と貢献の深さは、その地域の活性化レベルの尺度である



BOBSON®



株式会社ボブソン

本社 岡山市平野 788・TEL086-292-0166

栃木便い

外で感じる「日本」

☆

岩井 くに

栃木もだんだん寒くなってきました。北の方から初雪、初氷の便りが聞こえてきます。キャンパスの木々も葉を落とし始めています。

今年は、9月に韓国とインドネシア、11月にミャンマーと海外出張が続き、準備にばたばたしています。特に心がけてはいないのですが、私の旅行はいつも「ぎりぎりだが何とか間に合う」。これまでに、何度冷や汗をかいたことでしょうか。

さて、パスポート片手に出国審査を抜け、「ふぁ〜」とあくびを1つして、おもむろに待合室の椅子に腰をかけ、周りの人々をじろじろ観察するのが、密かな私の楽しみです。そこは〇〇国でも◎◎国でもないinternationalな世界。様々な髪の色、様々な目の色、世界の民族衣装が行き交い、聞き慣れない言葉がかわされています。「Excuse me, where are you from?」「I'm from Japan.」日本人であることを実感し、どきどきしながら相手の反応をうかがう一瞬です。

「Oh, you are Japanese!」その人はにっこりほほえんでくれま

した。ああ、よかった!

私が学生だった頃、アジアでは反日運動が盛り上がっていました。アジア医学生国際会議でアジアの医学生たちから「日本製品の輸出のおかげでわが国の経済が打撃を受け、貧しい人々がますます貧しくなっている。日本人としてどう思っているのか?」と何度詰



1997年防災訓練にて 右端が筆者

問されたことでしょう。そのころはアジアに関する情報も少なく、意識して情報収集していたわけでもなかった、私はわけもわからず曖昧に微笑み、相手はあきれたような顔でそっぽを向いてしまうのでした。もう一つ、私を困らせたのは「日本では××はどうなっていますか?」という日本について尋ねる質問の数々でした。その時まで自分が日本人だという意識があまりなかった私は、好むと好まざるとにかかわらず、外では日本

人として見られるのだ、国際人をめざすなら、まず、日本人のback groundをしっかりと固めなければ、と強く感じたのでした。

その時からすでに20年近くが過ぎようとしています。今では日本とアジアの国々の経済格差も少なくなり、日本で手に入るアジアの情報も格段に多くなりました。私自身、AMDAの活動などを通じて、世界中にたくさんの友人ができました。昔のように「日本人」と肩をひそめられることも減ったようです。でも、残念なことに、日本人は、けっこう目立ちます。外ではあまり見かけないのに、観光地では集団で歩いていて、おみやげ売場で

は山のように買い込み、値切っている...ときどき、日本人がお金持ちだから、親切にしてくれているだけで、対等に扱ってこれていないのではないかと不安になることがあります。日本という国を一人でも多くの人が好きになってくれるといいな、と外国に出るとお行儀良くなってしまう私は、帰国手続きが終わると、肩の重荷が降りたようで何となくほっとするのです。

AMDA国際医療情報センター便り

◆センター東京 〒160 東京都新宿区歌舞伎町郵便局留
TEL. 相談 03-5285-8088 事務 03-5285-8086
FAX. 03-5285-8087

・対応言語/時間

英語、中国語、スペイン語、韓国語、タイ語	月～金 9:00～17:00
ポルトガル語	月水金 9:00～17:00
ピリピノ語	水 9:00～17:00
ペルシャ語	月 9:00～17:00

◆センター関西 〒556 大阪市浪速区浪速郵便局留
TEL. 06-636-2333 FAX. 06-636-2340

・対応言語/時間

英語、スペイン語	月～金 9:00～17:00
ポルトガル語	火 13:00～16:00
中国語	月～金

(時間はお問い合わせ下さい)

ホームページアドレス <http://www.osk.3web.ne.jp/~amdack/>

エイズプロジェクト開始から1ヶ月半

エイズ予防財団の研究者招へい事業を利用してタイ人看護婦のブラパボンさんが活動を始めて1ヶ月半が過ぎました。10月15日現在の活動実績は派遣2回、面談1回、電話通訳7件、電話相談12件です。今後、タイ人女性が働く会社での健康相談と病院のソーシャルワーカーの集まりで話をする予定が入っています。これまでの活動を振り返ってブラパボンさんに感想を聞きました。

日本に来てからもう1ヶ月半になります。私の仕事はタイ人エイズ患者からの電話相談とHIVカウンセリングですが、相談者からタイ語を話すことができると嬉しかったと言われました。私は、AIDSという病気は人には言いにくいことだと思います。もし母国語で話を聞いてくれる人がいれば、とても心強いでしょうし、言いたいことも言えるのではないかと思います。

HIVの電話相談を始めてから、色々なところから電話がかかってきています。相談電話に出るときいつも、相談者には「あなたが言うことは秘密にしますから安心して下さい。」と言っています。相談者から信用されて、HIV以外のことで相談を受けたこともありました。時々、「友達にここで相談できることを紹介します」と言われます。

入院の患者さんを訪ねて病院にも行きました。タイ語で話すことができると嬉しそうにニコニコしている患者さんの顔が見られます。でも患者は自分の病気を心配することが多いでしょう。治療費のこと、治療期間のことなどで悩んでいます。そして、とても嬉しかったのは病院で通訳した患者さんが帰国後、国際電話をかけてきてくれたことです。本人も「頑張る」と私に言いました。その患者の強い意志に感心し、私ももっと頑張らなければならないと思いました。

(ブラパボン・ヨスコン)

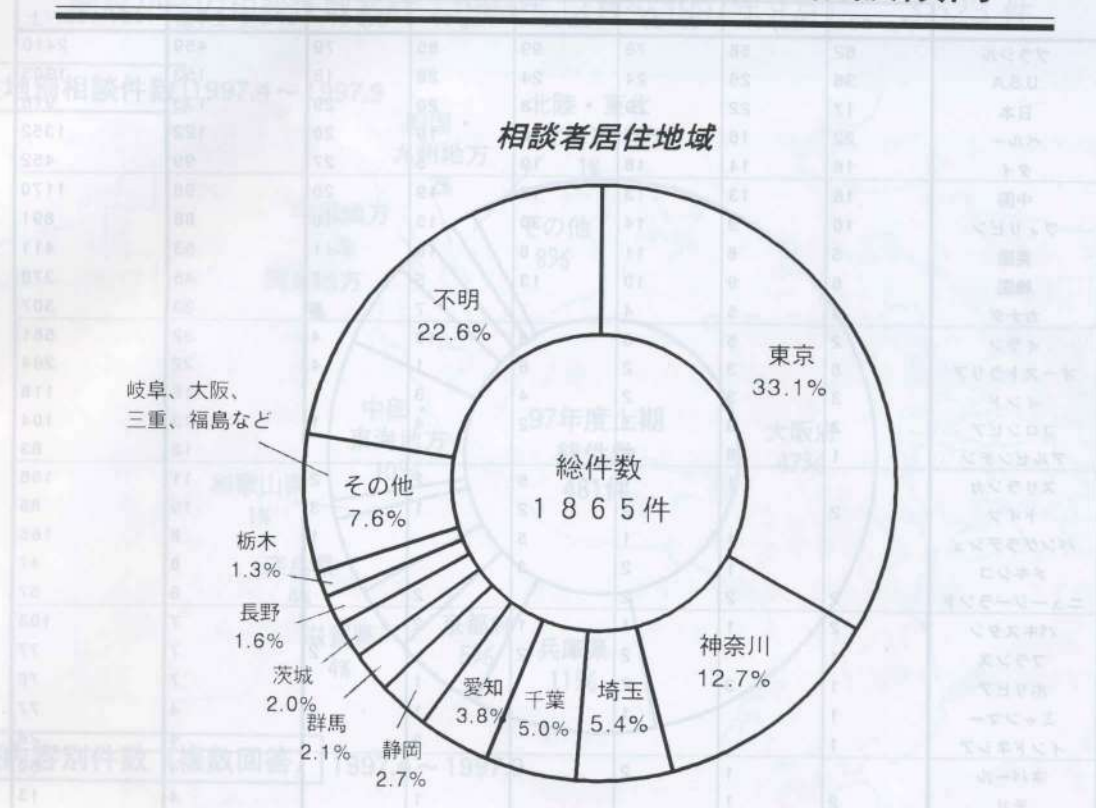
このプロジェクトは12月迄の予定です。タイ人患者さんとのコミュニケーションでお困りの方はご一報下さい。

16ヶ国語対応 歯科診察補助表

好評発売中

お問い合わせ、お申し込みはお近くのAMDA国際医療情報センターまで。

センター東京 1997 年度上期 相談傾向



センター東京 1997年度上半期国別相談件数

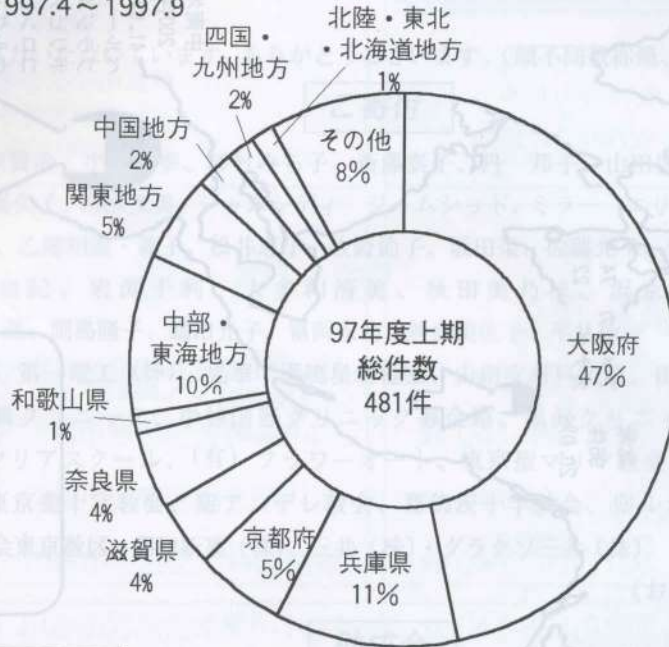
1997年上期に相談のあった国籍を多い順に並べました。開設は1991年4月

	Apr-97	May-97	Jun-97	Jul-97	Aug-97	Sep-97	97年度/上半期	1991-1997/上
ブラジル	62	58	76	99	85	79	459	2410
U.S.A	36	26	24	24	28	15	153	1903
日本	17	22	29	18	20	29	135	916
ペルー	22	16	23	22	19	20	122	1352
タイ	16	14	18	19	5	27	99	452
中国	16	13	13	15	19	20	96	1170
フィリピン	10	9	14	30	15	10	88	891
英国	5	8	11	8	10	11	53	411
韓国	6	9	10	13	5	2	45	378
カナダ	4	5	4	7	7	6	33	307
イラン	2	5	6	5	10	4	32	581
オーストラリア	6	3	2	6	1	4	22	264
インド	3	3	2	4	3	1	16	118
コロンビア	2	3	1	2	4	1	13	104
アルゼンチン	1	8	3				12	83
スリランカ		1	1	5	2	2	11	108
ドイツ	2		2	2	1	3	10	85
バングラデシュ		1	1	5		1	8	165
メキシコ		1	2	3		2	8	47
ニュージーランド	2	2	2		2		8	57
パキスタン	2	1	1	1	2		7	103
フランス	1		2	2		2	7	77
ボリビア	1	3	2		1		7	70
ミャンマー	1		1		1	1	4	77
インドネシア	1				3		4	28
ネパール		1	2	1			4	60
チリ	2	1			1		4	13
台湾			1		1	1	3	93
香港	2					1	3	24
ベトナム	1			2			3	19
スペイン				1		2	3	45
スイス			1		1	1	3	17
スウェーデン	2			1			3	18
ロシア				2	1		3	20
イスラエル				1	2		3	35
イタリア						2	2	21
ベルギー	1		1				2	5
ポーランド		1				1	2	14
バラグアイ						2	2	10
ケニア	1	1					2	3
モンゴル					1		1	3
マレーシア		1					1	47
カンボジア						1	1	3
アイルランド				1			1	31
オランダ		1					1	15
オーストリア						1	1	5
フィンランド					1		1	8
ポルトガル	1						1	7
ドミニカ					1		1	4
パナマ			1				1	4
ベネズエラ				1			1	3
バブアニューギニア	0				1		1	2
ガーナ						1	1	46
ナイジェリア				1			1	59
カメルーン						1	1	4
スーダン					1		1	4
南アフリカ	1						1	2
ギニア					1		1	2
コンゴ					1		1	1
ジブチ					1		1	1
シリア						1	1	
その他の国								134
不明	37	59	48	71	61	74	350	2448
合計	266	276	304	372	318	329	1865	15387

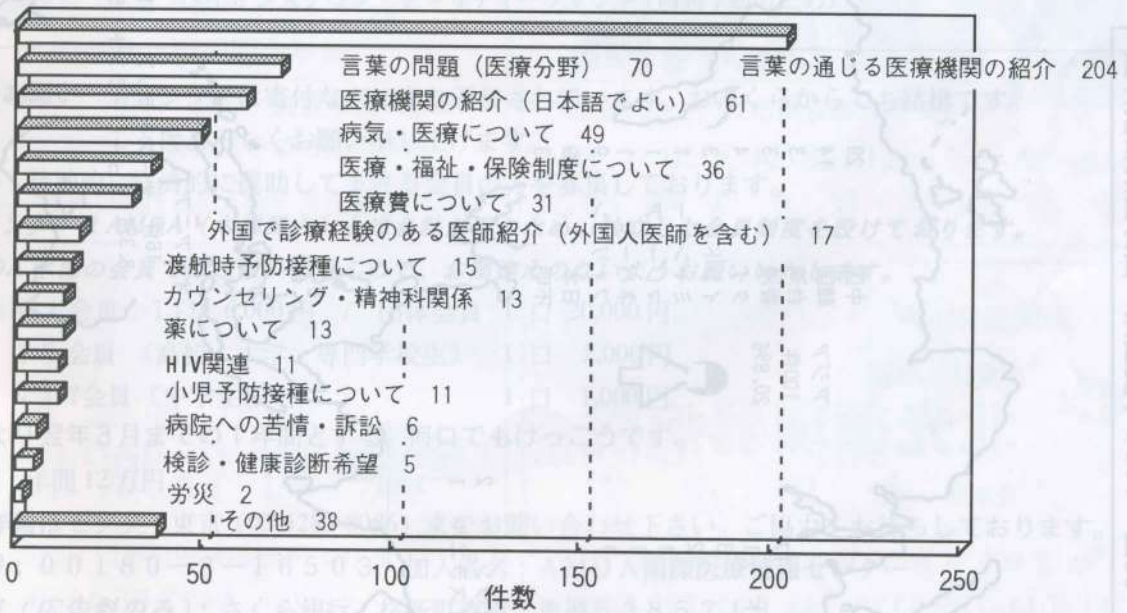
センター関西 1996 年度下期 相談受付状況

開設からの相談件数累計 (1993年12月～1997年9月) 3,623 件

居住地別相談件数 1997.4～1997.9



相談内容別件数 (複数回答) 1997.4～1997.9



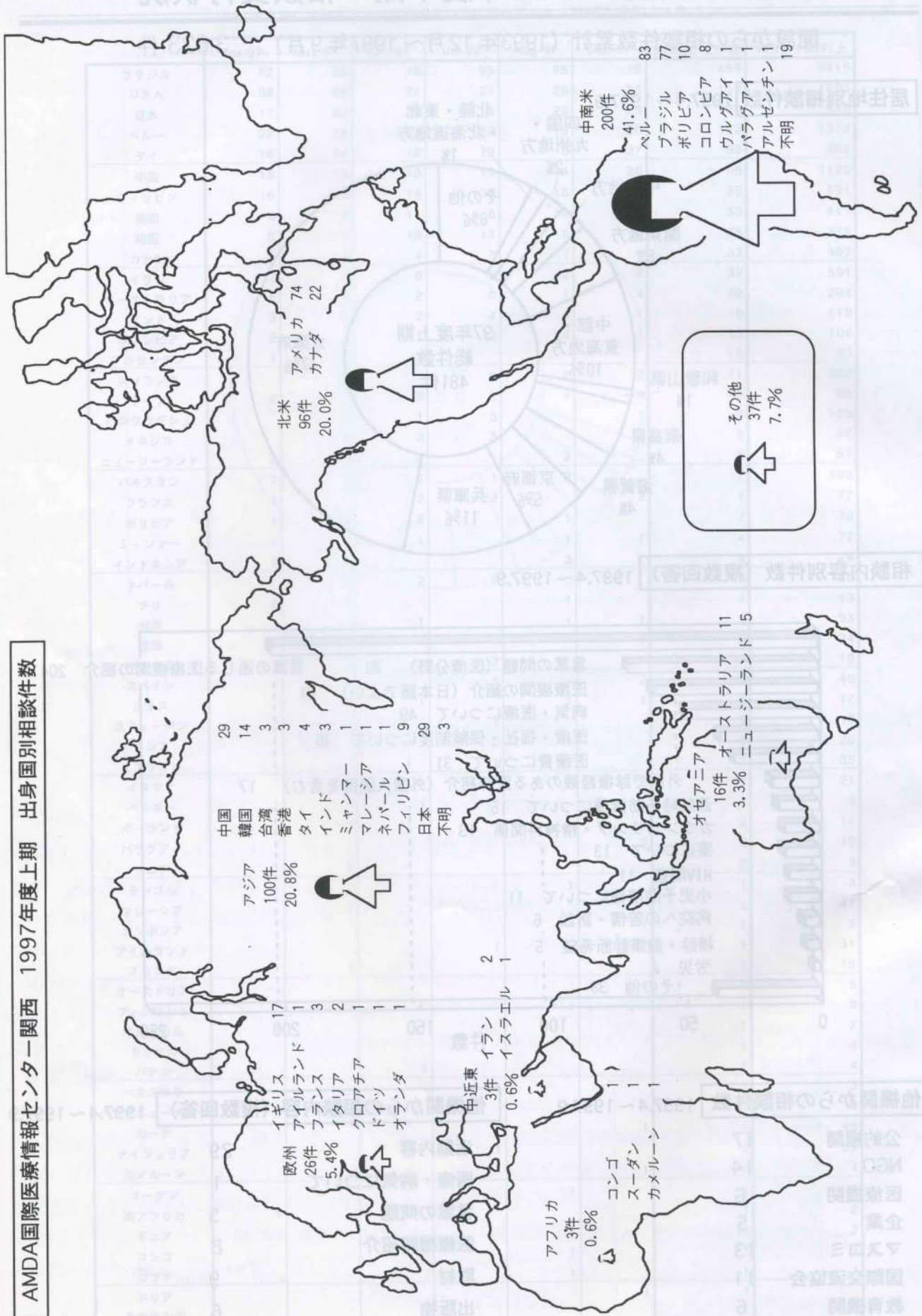
他機関からの相談件数 1997.4～1997.9

公的機関	17
NGO	14
医療機関	6
企業	5
マスコミ	13
国際交流協会	11
教育機関	6
その他	17
合計	89件

他機関からの相談内容 (複数回答) 1997.4～1997.9

活動内容	29
医療・病気について	1
言葉の問題	5
医療機関紹介	8
取材	9
出版物	6
その他	45
合計	103件

AMDA国際医療情報センター関西 1997年度上期 出身国別相談件数



AMDA 国際医療情報センター

1997年度運営協力者

以下の方々にご協力いただいています。ありがとうございます。(順不同敬称略、除く会員、9月末現在)

ご寄付

個人 北 英治、杉原賢治、小林米幸、杉村みち子、斎藤泰子、丹 邦子、山田博昭、西中満寿子、岩井くに、大沢ミヨ、森明男、相馬久子、清水茂美、ジャムシディ ジャムシッド、ミラー エリザベス、瀬戸幸子、加藤豊子、山名克巳、八重橋美喜、乙幡和雄・義子、松井恵子、牧野節子、坂田棗、佐藤光子、竹内七郎、海野尚久、刈野貞、奥山巖雄、井上美由紀、岩渕千利、大多和清美、秋田美乃枝、浜京子、松木豊、佐藤昌子、ジル ジェイコブ、松井眞、岡島隆子、鶴田光子、富岡宏乃、新倉美佐子、平井敬一

団体 三井物産(株)、第一電工(株)、晃華学園暁星幼稚園、山田皮膚科医院、田宮クリニック産科・婦人科、オカダ外科医院、高橋クリニック、小林国際クリニック募金箱、黒沢クリニック、耳鼻咽喉科早川医院、いずみの会、サンタマリアスクール、(有) フラワーオート、東京聖マリヤ教会、三光教会、聖パウロ教会、東京聖テモテ教会、東京聖十字教会、聖アンデレ教会、葛飾茨十字教会、聖ルカ礼拝堂、八王子復活教会、池袋聖公会、日本聖公会東京教区、興和新薬(株)、三共(株)・グラクソ三共(株)

(お名前を掲載しない方 11名)

助成金

大阪府国際交流財団(国際交流リーディング事業)、
ライオンズクラブ チャリティーファンド(両親学級のため)

ご寄付のお願い 当センターは寄付などにより運営されています。おいくらからでも結構です。

ご支援よろしくお願い申し上げます。

会員募集 精神的、経済的に援助して下さる会員の方を募集しております。

当センターはAMDA(本部岡山)とは会計が別のため、独立した会員制度を設けております。

AMDA本部の会員ではございませんので、お間違えのないようお願いいたします。

会費：個人会員 1口 6,000円 / 団体会員 1口 20,000円

学生会員(高校、大学、専門学校生) 1口 2,000円

ジュニア会員(中学生以下) 1口 1,000円

4月より翌年3月までの1年間とする。何口でもけっこうです。

広告募集 年間12万円

以上詳細はセンター東京(03-5285-8086)までお問い合わせ下さい。ご協力をお待ちしております。

郵便振替：00180-2-16503 加入者名：AMDA国際医療情報センター

銀行口座(広告料のみ)：さくら銀行 桜新町支店 普通5385716

口座名：AMDA国際医療情報センター 所長 小林米幸

AMDA国際医療情報センター 連絡先

センター東京：〒160 新宿区新宿歌舞伎町郵便局留 TEL 03-5285-8086 FAX 03-5285-8087

センター関西：〒556 大阪市浪速区浪速郵便局留 TEL 06-636-2333 FAX 06-636-2340

センター五反田オフィス：〒141 品川区東五反田1-10-7アイオス五反田ビル506

TEL 03-3440-9073 FAX 03-3440-9087

東京へのお問い合わせ、発送物はセンター東京(新宿)へお願いいたします。



クロヤ薬品(株)

〒102 東京都千代田区紀尾井町3-12
紀尾井町ビル
TEL 03-3238-2700 (代表)

産婦人科 心療内科
OB / GYN / PSYCHOTHERAPY

伊勢佐木クリニック

ISEZAKI WOMAN&S CLINIC

〒231 横浜市中区伊勢佐木町3-107
Kビル伊勢佐木2階
TEL 045-251-8622

内科・理学診療科

福川内科 クリニック

東成区東小橋3-18-3
(住友銀行鶴橋支店前)
ボンゲービル4F TEL 974-2338



大鵬薬品工業株式会社

〒101 東京都千代田区神田錦町1-27

内科(老人科)・理学診療科

医療法人社団 慶成会



〒198 東京都青梅市大門1-681 番地

●入院のお問い合わせ TEL 0428-24-3020 (代表)

院長 大塚 宣夫

フラワーオート

FLOWER AUTO

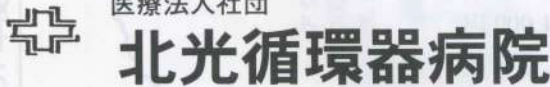
日本全国引取り納車 OK

新車中古車販売・車検・修理・板金・保険
自動車のことならお気軽に、御相談下さい。

神奈川県藤沢市片瀬376 TEL 0466-26-7744

循環器科・内科・心臓血管外科

医療法人社団



理事長 太田 茂 樹

〒065 札幌市東区北27条東8丁目

TEL 011-722-1133 FAX 011-722-0501

外科 整形外科 形成外科 脳神経外科
肛門科 内科 泌尿器科

医療法人 慶 泉 会



〒194 東京都町田市小川1523

TEL 0427-95-1668

16ヶ国語対応 「歯科診察補助表」

英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国語、
ペルシャ語、タイ語、ラオス語、カンボジア語、
ベトナム語、ベンガル語、フィリピン語、ロシア語、
フランス語、インドネシア語、マレー語

外国人が安心して歯科にかかれるための対訳表です。

1冊 ¥ 5,000 (税別) お申し込みはセンター東京まで

あなたのために、いいものを……

ラフォレ 緑
La forêt 緑

倉敷市水島北春日町13-18
TEL 086-448-6011

内科 消化器科 整形外科 神経内科
精神科 理学診療科



医療法人社団 永生会
永生病院

脳ドック
老人保健施設
イマジン開設

774床

◆人間ドック 企業健診◆

〒193 東京都八王子市栲田町 583-15
TEL 0426-61-4108

医療法人社団



**三好耳鼻咽喉科
クリニック**

院長 三好 彰

〒981-31 仙台市泉区泉中央 1-23-6

みなよい みよしさん

TEL 022-374-3443
FAX 022-378-3886

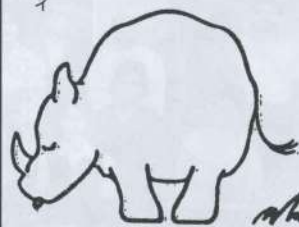
有限会社 **都 商 会**

- | | | |
|-------|----------------------|----------------|
| サリ一薬局 | 〒214 川崎市多摩区宿河原2-31-3 | ☎ 044-933-0207 |
| エリ一薬局 | 〒214 川崎市多摩区菅6-13-4 | ☎ 044-945-7007 |
| マリ一薬局 | 〒214 川崎市多摩区南生田7-20-2 | ☎ 044-900-2170 |
| 十字路薬局 | 〒211 川崎市中原区小杉御殿町2-96 | ☎ 044-722-1156 |
| セリ一薬局 | 〒216 川崎市宮前区有馬5-18-22 | ☎ 044-854-9131 |
| アミー薬局 | 〒242 大和市西鶴間3-5-6-114 | ☎ 0462-64-9381 |
| マオ一薬局 | 〒242 大和市中心5-4-24 | ☎ 0462-63-1611 |



お手本は、
自然の中にありました。

ほくは、
シオナメナサイ



小さな知恵から、豊かな未来へ

全農

♣ 消化器科・外科・小児科 ♣

小林国際クリニック

Kobayashi International Clinic

小林国際医院

診療時間：平 日 月曜日～金曜日 9:15～12:00 / 14:00～17:00
土曜日 9:15～13:00
休診日 水曜日、日曜日、祝祭日

☎ **0462-63-1380**

神奈川県大和市西鶴間3-5-6-110
小田急江ノ島線・鶴間駅下車徒歩4分

AMDA 神奈川支部発足

代表 小林 米幸

10月25日(土)、大和市勤労福祉会館にて非会員を含め20名の参加の下AMDA神奈川支部が発足いたしました。国内支部としては沖縄支部について二番目の支部となります。現在、神奈川県内の会員数は約70名であり、より地域に密着した草の根型の活動を展開することによりAMDAを支持してくださる人々のすそ野をひろげ、神奈川県におけるNGOのさらなる発展の一助になればと考えております。役員、連絡先は下記の通りです。



AMDA 神奈川支部役員 (敬称略)

代表 小林米幸
副代表 松本哲雄 (県東部)
中沢由江 (県西部)
熊木由美 (県央)

会計 岩淵満江
会計監査 大西誠一郎
有川 格

連絡先 郵便番号 242
神奈川県大和市西鶴間3-5-6-110
医療法人社団小林国際クリニック内
電話 0462-63-1380
FAX 0462-63-0919

—ご案内—

■第15回AMDA国際医療協力研究会

- ・テーマ「貧困と健康」
- ・ジブチ報告プロジェクト報告
- ・難民キャンプ医療支援・産婦人科技術協力
- ・講演者 林 やよい
(AMDAジブチプロジェクト調整員)
- ・日時1997年12月18日(木)18:30~20:30
- ・場所 アイオス五反田ビル 2階会議室
- ・参加費 500円 ・主催 AMDA
- ・連絡先 AMDA東京オフィス
TEL 03-3440-9073 FAX 03-5798-7133

●ナイロビオフィス

この10月よりケニアナイロビのアフリカ地域事務所所長として本部事業推進局の林信秀が赴任いたしました。彼の着任でアフリカ地域事務所はアフリカ地域でのプロジェクトを、より現地で強力にサポートすることになるでしょう。これにともない、9月より岡安利治が本部事務局アフリカ担当として赴任いたしましたので、以下に自己紹介させていただきます。

●本部

AMDA 事業推進局

プログラムマネージャー

岡安 利治



早いもので、岡山に来て、2カ月になります。相変わらず岡山市内に何がどこにあるかわからないのですが、毎日紅葉に色づいた菅波内科医院の裏にそびえる小高い山々を見ながら、この辺

もいいところだなどと思いつつ、自転車で5分の通勤時間を楽しんでいます。そして本部事務局に入るのですが、自分の机に

たまる書類、次から次に来る今日明日中にやってくれという仕事に毎日『今日も仕事が終わらなかった。』と午前0時頃に自宅に帰っていくのが日課になってきました。

AMDAに来る前は、フランスに4年ほど滞在してしまっていて、前半はツール・ド・フランスにあこがれ、自転車ロードレースをやっておりました。毎週、100kmのレースを2つ3つこなし、500~600kmを走っておりました。稼ぐ賞金は生活費においつかず、チームメイトのフランスチャンピオンもプロへの道をあきらめ、私も自分の限界を感じ、この生活にきりをつけ、再び勉強しようと大学を探し始めました。

そんなわけで、エクサンプロ

ヴァンス大学で政治思想史・法制史の博士前期号を取ったのですが、フランス公法史や政治思想の授業に苦しみつつ、試験には、丸暗記作戦で臨み、よくも試験に通ったものだといまだに思っています。あのころの論文制作や試験勉強は、もう2度とやりたくないと思いついて返しています。1つには、自分の興味に合わなかったのと、頭まで、筋肉になってしまった思考回路を回復するのに時間がかかったからでしょう。そして自分のやりたい事を学ぼうと同じ大学院にあった人道援助学科を出て、ジュネーブ国連欧州本部でインターンをやり、日本帰国後、菅波代表に出会いました。

現在の仕事は、自分の専門に近いものであり、興味深いのですが、何分不慣れなため、とまどう毎日です。しかし、この仕事についておかげで、ボランティアの方から、普段お会いできない方まで様々な人々に合うことができ、いい経験をさせていただいているなど思っています。今後ともよろしく願います。もし自転車競技に興味がある方いましたら、気軽に声をかけてください。

<お詫びと訂正> 11月号裏表紙ウラ(日進ゴムの広告)の中で、教育シューズ専用TELとFAX番号が入れ替わっている等、2ヶ所に誤りがありました。お詫びして訂正します。

・保険・体育→保健・体育 ・教育シューズ専用 TEL 086-252-4381 FAX 086-254-8595

ご入会、会費、ご寄付、その他ご購入のための振込は、本誌とじ込みの郵便振替用紙をご使用になるか、下記口座をご利用下さい。いずれも振込目的を明記して下さい。

■中国銀行一宮支店(普通) 口座番号1272011 口座名AMDA

■第一勧業銀行岡山支店(普通) 口座番号1816947 口座名AMDA

AMDAホームページ
AMDA Internet Station
<http://www.amda.or.jp>

AMDA カレンダー 1998 年版ができました

昨年もご好評をいただきました『AMDA カレンダー 1998 年版』が出来上がりました。

今年は写真家の山本将文さんが AMDA のフィールドを訪れて、世界の子どもの“今”をとらえています。被災地で、難民キャンプで、力強く生きる子ども達の輝きを皆様のお手元にお届けいたします。

ご希望の方は、下記の代金分の郵便小為替を添えて AMDA 本部までお送り下さい。

■送付先：〒701-12 岡山市橘津 310-1
AMDA 本部まで TEL 086-284-7730

●定 価：1,000 円（消費税込）

*ただし多数ご注文いただきました場合は一冊の料金を以下のとおり割引致します。

10 部以上 900 円
50 部以上 800 円
100 部以上 700 円

●送 料：

1 部 270 円 2 部 390 円
3～4 部 着払いでお送りいたします。

*5 部以上で同一住所の場合は

AMDA 負担

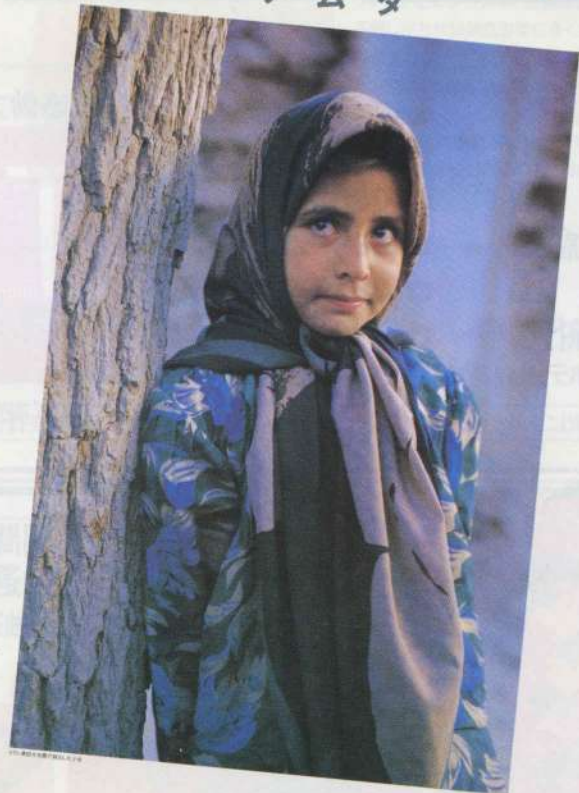
*サイズ：縦 64cm 横 34cm

C A L E N D A R
1998

Better Quality of Life for a Better Future

AMDA

アムダ



AMDA本部
〒701-12 岡山市橘津 310-1
AMDA 本部まで
TEL 086-284-7730

制作 AMDA
撮影 山本将文
デザイン 伊勢功治



■ AMDA
テレホンカード

・1枚 (50 度数)
1,000 円
300 円が収益と
なります
送料
2 枚まで 80 円
3 枚から無料

■ AMDA T シャツ

・L サイズのみ

1,900 円

送料 1 枚 300 円

2 枚 400 円

3 枚以上無料



■ AMDA
募金箱設置

AMDA 募金箱設置が
可能な方、ご連絡く
ださい。



AMDA へのご支援を

あなたもできる国際協力

旅の情報発信基地、TiSから世界へ。



＜イタリア＞



＜ニューヨーク＞



＜香港＞



＜中国＞

※掲載Photoは全てイメージになります。

個人・グループ・団体旅行のご相談、ご用命は…

- TiS 岡山 ☎(086)223-2030
 - TiS 倉敷 ☎(086)422-0100
 - TiS 新倉敷 ☎(086)522-1471
 - TiS 福山 ☎(0849)21-2258
 - 岡山団体旅行センター ☎(086)223-2031
- 航空券・ホテル券等の販売も承っております。

旅・感動フロンティア



当社オリジナルブランド



当社、国内オリジナルブランドウェンズ、海外オリジナルブランドウェンズワールドなど、お客様の目的に合わせて国内海外を問わず幅広く取り揃えております。

TiSは駅にあります。家族旅行はもとより出張、海外旅行、団体旅行まで各方面、各ブランドを取り揃えています。旅ならTiSにお任せ下さい。

ベリークリスマスフェア

X'mas

11月14日 FRI
12月25日 THU



期間中、お買上げ5,000円ごとに1回
抽選のチャンス! 素敵な景品が当たります。

空くじなし

★抽選会場/イルカの広場 10:00~20:00 (最終日は22:00まで)

- A賞** いずれか1点 **30本**
- 10万円の岡山一番街お買物券 ●10万円のTiSトラベルギフト券
- B賞** ●IXYコンパクトカメラ
●プレイステーション&ソフト
●ホテルグランヴィア岡山
ステイ&ディナー(ペア)
●リチャードジリココーヒー&ティークリップ
●ジャンニベルサーチBAG
●MICHEL KLEINペンダント
..... いずれか1点 **150本**

- C賞** いずれか1点 **350本**
- ジャンニベルサーチファッショングッズ
●ブランドアクセサリー ●ヘアースタyling
セット ●ホテルグランヴィア岡山「アプローズ」
チケット(ペア) ●シャンパン&グラスセット
●アクアスキュータムウールベアマフラー
●フジインスタントカメラ「フォトラマ」
- D賞** いずれか1点 **1,000本**
- ハーブガーデンセット ●ファミリーボード
ゲーム ●フローティングキャンドルセット
●立体パズル「モンサン・ミッシェルフランス」
●岡山一番街お買物券 ●リラクゼーションセット
- E賞** いずれか1点 **3,500本**
- 岡山一番街グルメチケット
●岡山一番街オリジナル油取り紙
- F賞** いずれか1点 **18,000本**
- オリジナルチョコレート
●ロイヤルミルクティー ●卓上カレンダー
- 参加賞** **もれなく**
- オリジナルティッシュペーパー

★10回以上抽選の方、及び20回以上抽選の方で、参加賞だけの方には、もれなくオシャレグッズをプレゼント。

X'mas ギフトコレクション
各店おすすめギフト好適品をお買上げの方、先着1,000名様にイルカのグリーティングカード(4枚1組)をプレゼント。
★プレゼント場所/インフォメーション

X'mas FACTORY & インターネットワールドクリスマス

お歳暮おすすめフェア paku-paku

岡山 一番街

OKAYAMA ICHIBANGAI

〒700 岡山市駅元町1-1-201 ●営業時間/10:00~20:00
■喫茶/9:00~21:00 ■お食事/11:00~22:00 ■岡山うまい
もんどころpaku-paku/9:00~20:00(アンデルセン/7:30~
20:00、結納まるぶく/10:00~20:00) ●インフォメーション/
TEL(086)232-9411 ●11・12月は休まず営業します。

健康をテーマに、独創的な製品をCreateする。

1921年、大塚製薬は生まれました。以来、広く人々の健康に役立つ製品をつくってきました。

時が流れて、人々の生活意識も大きく変わりましたが、常に健康についての新しいテーマを社会に提案しています。大塚は今、人々の多様化、高品質化した要望に応えられる製品ラインを揃えています。そのコンセプトは、“健康”をテーマにした独創的な製品づくり

それは基礎研究のあり方から始まります。徳島研究所を核に、国内・海外にサテライト研究所を擁し、少数精鋭の各研究所では、独自の視野を持って研究開発に取り組んでいるのです。この一貫した姿勢は、未来へ向けて着実に歩みを進めています。

アクティブ バランス栄養食 カロリーナイト

からだに必要な5大栄養素をバランス良く配合。忙しいとき、普通の食事が摂れない時などにどうぞ。ハンディな固形タイプとからだにやさしい流動タイプの2種。



ベータカロチン含有飲料

ファイブミニプラス



ファイブミニプラスは、私達の食生活で不足しがちな緑黄色野菜に多く含まれるベータカロチン、ビタミンC、ビタミンEと食物繊維を含有したおいしい飲料です。気軽にお飲みいただくことにより、いつの間にか緑黄色野菜をたっぷり摂ったと同じ位の栄養成分が摂取できます。

大塚製薬株式会社岡山出張所

〒700 岡山市下中野402-4

TEL (086) 244-4400 FAX (086) 244-1233

Asahi
SOFT DRINKS



独自のワンダフル製法 (ワンダフルブレンド)
 ◎上質なコーヒー感を生む、高級アラビカ種豆を使用
 ◎香りが引き立つ、半直火式焙煎による5段階ロースト
 ◎豊かな香りと雑味のないキレ味の良さを表現する抗酸化低温抽出
 ワンダフルブレンド 缶190g (105円) 特許出願中

うまさ、キレ味、ワンダフル。

ワンダ
WONDA
COFFEE

のんだあとはリサイクル ※ () 内価格は希望小売価格 (消費税別) です。

新世代缶コーヒー
ワンダ、
好評発売中。



ノンアルコール
ワンダフルブレンド

アサヒ飲料



● <http://www.pnc.or.jp/yume/>
ゆめ建つONLINE
 Client: 株式会社夢建人

大阪に本社を置く総合建築会社のホームページ。建築現場の施工状況の写真を毎日このページを通じてお客様に配信。



● <http://www.pnc.or.jp/olive/>
オリーブONLINE
 Client: 日本オリーブ株式会社

牛窓にあるオリーブオイルのメーカーによる、カタログショッピングのためのホームページ。売上金の一部をAMDA (アジア医師連絡協議会) に寄付。



● <http://www.pnc.or.jp/yoshiura/>
Yoshiura Recruiting Information
 Client: 吉浦牧場

リクルーティングを目的に開設されたホームページ。牧場での仕事を多角度から紹介しています。



● <http://www.pnc.or.jp/smile/>
すまいるONLINE
 Client: 船穂町社会福祉協議会

船穂町に暮らす高齢者の方々の創作活動やサークル活動を紹介しながら、高齢化社会に向けたインターネットの利用を各種実験中。



● <http://www.pnc.or.jp/ocs/>
あなたにつながる世界のために
 Client: 岡山中央システムズ株式会社

岡山のソフトウェア会社のホームページ。自社開発のソフトウェア製品の特徴、仕様を紹介。

Internet Solution 98

PNC
 internet official server

呼吸するインターネット。

インターネットは、日々動き、進化する、巨大なメディアです。しかし一方、情報の質、コミュニケーションの在り方を厳しく問われる、かつてないメディアでもあります。生きたインターネットを、活かしていくために。ソリューションは、PNCサーバーです。



ポートベロネットワークセンター
 Server Administrator: master@pnc.or.jp
 Home Page address: <http://www.pnc.or.jp/>

PORT BELLOW INC

株式会社 ポートベロ

Office: 岡山市大元上町14-29 〒700-0925
 phone 086-245-9332 facsimile 086-245-9335
 E-mail address: info@portbellow.co.jp
 Home Page address: <http://www.portbellow.co.jp/>

PNCサーバーが価値あるインターネット環境を提供します。

PNCサーバーは、インターネットというグローバルな情報網を、企業がより有効に活用するための環境確保のために設置されたサーバーです。インターネットご利用に関するさまざまなご要望にお応えします。資料をご用意しております。お気軽にお問い合わせください。